

Rec'd PCT/PTO 11 MAR 2005

PCT/JP03/14297

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

11.11.03

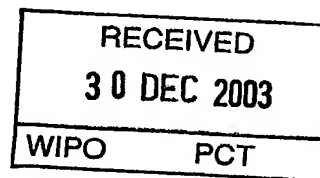
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2002年11月19日
Date of Application:

出願番号 特願2002-334643
Application Number:
[ST. 10/C]: [JP2002-334643]

出願人 松下電器産業株式会社
Applicant(s):

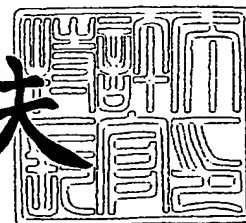


PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年12月12日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2003-3103224

【書類名】 特許願

【整理番号】 2033840245

【提出日】 平成14年11月19日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 G06F 17/00

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 荒木 昭一

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 九津見 洋

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 吉田 篤

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地 松下電器産業株式会社内

【氏名】 松浦 聡

【特許出願人】

【識別番号】 000005821

【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

【識別番号】 100077931

【弁理士】

【氏名又は名称】 前田 弘

【選任した代理人】

【識別番号】 100094134

【弁理士】

【氏名又は名称】 小山 廣毅

【選任した代理人】

【識別番号】 100110939

【弁理士】

【氏名又は名称】 竹内 宏

【選任した代理人】

【識別番号】 100110940

【弁理士】

【氏名又は名称】 嶋田 高久

【選任した代理人】

【識別番号】 100113262

【弁理士】

【氏名又は名称】 竹内 祐二

【選任した代理人】

【識別番号】 100115059

【弁理士】

【氏名又は名称】 今江 克実

【選任した代理人】

【識別番号】 100115510

【弁理士】

【氏名又は名称】 手島 勝

【選任した代理人】

【識別番号】 100115691

【弁理士】

【氏名又は名称】 藤田 篤史

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 014409

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0006010

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 操作ログ連携利用装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 複数機器に蓄積されたユーザの操作ログを機器間で相互に利用する装置であって、

ユーザによる機器の操作を検出する機器操作検出部と、

検出された操作を所定の属性とともに操作ログとして蓄積管理する操作ログ蓄積管理部と、

ユーザ操作を検出した際に蓄積される現在の操作ログをカレント操作ログとして相互通信可能な他の機器に送信するカレント操作ログ送信部と、

他の機器から送信されるカレント操作ログを受信するカレント操作ログ受信部と、

受信したカレント操作ログと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして前記操作ログ蓄積管理部より抽出する関連操作ログ抽出部と、

抽出された前記関連操作ログを他の機器に送信する関連操作ログ送信部と、

他の機器より送信される関連操作ログを受信する関連操作ログ受信部と、

受信した関連操作ログを所定の操作ログ解釈方法で解釈する関連操作ログ解釈部と、

解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示する関連操作ログ提示部と、

提示された関連操作ログから所定のログ加工方法で他の機器への連携操作内容を決定する連携操作内容決定部と、

決定された連携操作内容を該当する機器に送信する連携操作内容送信部と、

他の機器からの連携操作内容を受信する連携操作内容受信部とを備えたことを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 2】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、

前記所定の属性は、日時識別子と、機器識別子、操作識別子、コンテンツ識別子、アプリケーション識別子、サービス識別子、ユーザ識別子の少なくとも 1 つとの組み合わせを備えたことを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 3】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、

前記所定の関係にある操作ログは、蓄積された時刻が所定の範囲に含まれる操作ログであることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 4】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定の操作ログ解釈方法は、ユーザの現在の状況に関連する機器及び機器操作の関連度算出であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 5】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定の操作ログ解釈方法は、操作頻度による機器の順位付けであることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 6】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定の操作ログ解釈方法は、前記所定の属性の属性値の出現頻度によるログのグループ化であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 7】 請求項 6 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記関連操作ログのユーザへの提示は、前記属性値の出現頻度順の提示であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 8】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定のログ加工方法は、提示されたログ自身の選択であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 9】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定のログ加工方法は、選択したログの属性値変更であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 10】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
前記所定のログ加工方法は、複数の属性値の組み合わせであることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 11】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、
ユーザが決定した他の機器への連携操作内容をカレント操作ログとともに蓄積管理する連携操作内容蓄積管理部を更に備え、

前記関連操作ログ提示部は、他の機器からの関連操作ログとともに過去にユーザが決定した連携操作内容を提示することを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 12】 請求項 1 又は 11 に記載の操作ログ連携利用装置において

他の機器から受信した関連操作ログ及び／又は前記連携操作内容蓄積管理部に蓄積されている連携操作内容及びカレント操作ログからユーザの次の連携操作内容を予測する連携操作内容予測部を更に備えたことを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 13】 請求項 12 記載の操作ログ連携利用装置において、前記連携操作内容予測部による予測は、他の機器から受信した関連操作ログ及び／又は前記連携操作内容蓄積管理部に蓄積されている連携操作内容を所定の属性でグループ化し、前記グループ化された関連操作ログとカレント操作ログの異なる属性値の置換であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 14】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、所定のタイミングで機器のステータスを検出する機器ステータス検出部と、検出したステータスに関する機器ステータス情報を蓄積管理する機器ステータス蓄積管理部と、機器ステータス情報を他の機器に送信するステータス情報送信部と、他の機器からの機器ステータス情報を受信する機器ステータス情報受信部とを更に備え、前記関連操作ログ抽出部は、前記機器ステータス情報の受信をトリガとして動作することを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 15】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、前記機器ステータス情報の送信は、機器ステータスに変化が起きた時であることを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 16】 請求項 1 記載の操作ログ連携利用装置において、ハードウェアリソースに制限のある機器が、ハードウェアリソースに余裕のある機器に操作ログの蓄積及び連携操作ログの代理処理を依頼する機器従属関係設定部を更に備えたことを特徴とする操作ログ連携利用装置。

【請求項 17】 複数機器に蓄積されたユーザの操作ログを機器間で相互に利用する方法であって、ユーザによる機器の操作を検出する機器操作検出ステップと、

検出された操作を所定の属性とともに操作ログとして蓄積管理する操作ログ蓄積管理ステップと、

ユーザ操作を検出した際に蓄積される現在の操作ログをカレント操作ログとして相互通信可能な他の機器に送信するカレント操作ログ送信ステップと、

他の機器から送信されるカレント操作ログを受信するカレント操作ログ受信ステップと、

受信したカレント操作ログと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして前記操作ログ蓄積管理ステップの蓄積操作ログより抽出する関連操作ログ抽出ステップと、

抽出された前記関連操作ログを他の機器に送信する関連操作ログ送信ステップと、

他の機器より送信される関連操作ログを受信する関連操作ログ受信ステップと、

受信した関連操作ログを所定の操作ログ解釈方法で解釈する関連操作ログ解釈ステップと、

解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示する関連操作ログ提示ステップと、

提示された関連操作ログから所定のログ加工方法で他の機器への連携操作内容を決定する連携操作内容決定ステップと、

決定された連携操作内容を該当する機器に送信する連携操作内容送信ステップと、

他の機器からの連携操作内容を受信する連携操作内容受信ステップとを備えたことを特徴とする操作ログ連携利用方法。

【請求項 18】 コンピュータに、

ユーザによる機器の操作を検出する機器操作検出ステップと、

検出された操作を所定の属性とともに操作ログとして蓄積管理する操作ログ蓄積管理ステップと、

ユーザ操作を検出した際に蓄積される現在の操作ログをカレント操作ログとして相互通信可能な他の機器に送信するカレント操作ログ送信ステップと、

他の機器から送信されるカレント操作ログを受信するカレント操作ログ受信ステップと、

受信したカレント操作ログと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして前記操作ログ蓄積管理ステップの蓄積操作ログより抽出する関連操作ログ抽出ステップと、

抽出された前記関連操作ログを他の機器に送信する関連操作ログ送信ステップと、

他の機器より送信される関連操作ログを受信する関連操作ログ受信ステップと、

受信した関連操作ログを所定の操作ログ解釈方法で解釈する関連操作ログ解釈ステップと、

解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示する関連操作ログ提示ステップと、

提示された関連操作ログから所定のログ加工方法で他の機器への連携操作内容を決定する連携操作内容決定ステップと、

決定された連携操作内容を該当する機器に送信する連携操作内容送信ステップと、

他の機器からの連携操作内容を受信する連携操作内容受信ステップとを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、ネットワークで相互に接続された機器において、複数機器から得られるユーザの利用履歴に基づく機器の連携方法（設定、制御、情報提供）に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

機器の利用履歴に基づいて各機器を推奨される動作状態に制御する従来のシステムとしては、例えば、双方向リモコンに複数の家電機器の利用履歴を蓄積し、

蓄積された利用履歴をネットワークを介して趣味・嗜好分析機能を持ったサーバに送信し、サーバからは利用履歴の分析結果としてユーザの嗜好に合った「おすすめ情報」（例えば操作対象がテレビやビデオであれば「おすすめ番組」）を双方向リモコンに送信し、ユーザが「おすすめ情報」を選択することにより機器を制御するものがある（特許文献1参照）。このシステムによれば、ユーザが操作対象として双方向リモコンでビデオを選択すれば、リモコンに「おすすめ番組」が表示され、その番組の予約録画制御ができる。また、電子レンジが選択されれば、リモコンに「おすすめレシピ」が表示され、電子レンジの制御コマンドをリモコンから転送することができる。

【0003】

【特許文献1】

特開 2002-203168号公報

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、従来の技術は前述のとおり「おすすめ情報」の作成に複数機器の利用履歴を用いるが、「おすすめ情報」の提示と機器の制御は、ユーザが操作対象として選択した機器に閉じている。したがって、例えば、ある番組が終わってテレビの電源をオフにすると、これに連携してPCを起動させてメール送信の準備をするなどといった、ユーザの状況に合わせた機器連携はできない。

【0005】

本発明は、かかる点に鑑み、複数機器の分散管理された操作ログを、機器に対する操作イベントが発生するごとに相互通信することにより、機器間での関連した操作を発見するとともにユーザに提示して、複数機器の連携制御を実現可能とすることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するため、本発明に係る操作ログ連携利用装置は、複数機器に蓄積されたユーザの操作ログを機器間で相互に利用する装置であって、ユーザによる機器の操作を検出する機器操作検出部と、検出された操作を所定の属性とと

もに操作ログとして蓄積管理する操作ログ蓄積管理部と、ユーザ操作を検出した際に蓄積される現在の操作ログをカレント操作ログとして相互通信可能な他の機器に送信するカレント操作ログ送信部と、他の機器から送信されるカレント操作ログを受信するカレント操作ログ受信部と、受信したカレント操作ログと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして前記操作ログ蓄積管理部より抽出する関連操作ログ抽出部と、抽出された前記関連操作ログを他の機器に送信する関連操作ログ送信部と、他の機器より送信される関連操作ログを受信する関連操作ログ受信部と、受信した関連操作ログを所定の操作ログ解釈方法で解釈する関連操作ログ解釈部と、解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示する関連操作ログ提示部と、提示された関連操作ログから所定のログ加工方法で他の機器への連携操作内容を決定する連携操作内容決定部と、決定された連携操作内容を該当する機器に送信する連携操作内容送信部と、他の機器からの連携操作内容を受信する連携操作内容受信部とを備えることとしたものである。

【0007】

【発明の実施の形態】

図1は、本発明のシステムの全体構成を示すブロック図である。図1において、1はDTV（デジタルテレビ）、PC（パーソナルコンピュータ）、PDA（個人用の携帯情報端末）、MDコンボ、DVD・HDDレコーダなどのネットワーク接続可能な家電機器、2は有線又は無線のネットワークから構成されるLAN（ローカルエリアネットワーク）、3はWAN（インターネットなどの広域通信網）、4はLAN2をWAN3に接続するルータである。家電機器1は、操作ログ連携利用手段10により、各家電機器1ごとに操作ログを蓄積して分散管理し、複数の機器間で操作ログを相互参照し、連携して行う操作の候補をユーザに提示する。

【0008】

以下、家電機器1に搭載される操作ログ連携利用手段10について具体的に説明する。本発明の実施の各形態は、ユーザの日常生活における生活パターンを機器の操作ログから把握し、その時々ユーザの状況（コンテキスト）や意図を理解して複数機器の連携をとるように、各機器を操作・設定したり、「おすすめ情

報」を提供したりすることを可能にするものである。

【0009】

(第1の実施の形態)

図2に、第1の実施の形態に係る操作ログ連携利用手段10のブロック図を示す。図2において、101はユーザによる機器の操作を検出する機器操作検出部、102は検出された操作を所定の属性とともに操作ログとして蓄積管理する操作ログ蓄積管理部、103はユーザ操作を検出した際に蓄積される現在の操作ログをカレント操作ログとして相互通信可能な他の機器に送信するカレント操作ログ送信部、104は他の機器から送信されるカレント操作ログを受信するカレント操作ログ受信部、105は受信したカレント操作ログと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして操作ログ蓄積管理部102より抽出する関連操作ログ抽出部、106は抽出された関連操作ログを他の機器に送信する関連操作ログ送信部、107は他の機器より送信される関連操作ログを受信する関連操作ログ受信部、108は受信した関連操作ログを所定の操作ログ解釈方法で解釈する関連操作ログ解釈部、109は解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示する関連操作ログ提示部、110は提示された関連操作ログから所定のログ加工方法で他の機器への連携操作内容を決定する連携操作内容決定部、111は決定された連携操作内容を該当する機器に送信する連携操作内容送信部、112は他の機器からの連携操作内容を受信する連携操作内容受信部である。1001はリモコン、ディスプレイなどのユーザIF（ユーザインタフェース）、1002はネットワークIF（ネットワークインタフェース）である。ユーザIF1001は、タブレット付きリモコンや、PDAに搭載されたソフトウェアキーボードなどを含む。

【0010】

以上のように構成された第1の実施の形態の動作を図3のタイミングチャート及び図4～図6のフローチャートを用いて説明する。本実施の形態の動作をよりわかりやすく説明するために、ここでは、DTVとPCとMDコンポの連携操作を例に説明する。

【0011】

図3に示すように、本実施の形態の動作は、

処理手順1：ユーザの操作イベントを他の機器に通知する、

処理手順2：他の機器からの操作イベントを受信して関連する操作ログを返信する、

処理手順3：他の機器から受信した関連操作ログを解析して提示された結果をユーザが選択加工したうえ、連携する機器に連携操作内容を送信する、

処理手順4：連携操作内容を受信して実行する、

という4つの処理手順からなる。以下、その詳細を図4～図6のフローチャートを参照しながら説明する。

【0012】

まず、処理手順1について図4のフローチャートを用いて説明する。ここでは、図3中のDTVの操作を例として説明する。

【0013】

ステップ11aは、操作入力受け付けステップである。機器操作検出部101は、ユーザからの操作を受け付ける。入力があればステップ11bへ。なければ引き続き操作入力を待ち受ける。ここでは、DTVの電源がオフされたものとする。

【0014】

ステップ11bは、操作ログ蓄積ステップである。操作ログ蓄積管理部102は、ステップ11aで受け付けた操作を所定のフォーマットで蓄積する。図7は操作ログの蓄積に用いる記述子の一例である。例えば、日時識別子と、機器識別子、操作識別子、コンテンツ識別子、アプリケーション識別子、サービス識別子、ユーザ識別子の少なくとも1つとの組み合わせを用いる。

【0015】

ステップ11cは、カレント操作ログ送信ステップである。カレント操作ログ送信部103は、現在の操作に関するログを他の機器に送信する。DTVの電源をオフ（Power Off）した際に送信されるログの一例を図8に示す。

【0016】

ステップ11dは、機器の電源の確認ステップである。ここでは、機器の電源

がオン (On) かオフ (Off) かを判断する。オフの場合はステップを終了する。オンであればステップ 11a に戻りユーザの操作入力を待ち受ける。

【0017】

次に、処理手順 2 について図 5 のフローチャートを用いて説明する。ここでは、DTV からのカレント操作ログを受信する PC と MD コンポの動作を例として説明する。

【0018】

ステップ 12a は、他の機器からのカレント操作ログを受け付けるステップである。カレント操作ログ受信部 104 は、他の機器からのカレント操作ログを受け付ける。操作ログを受信すればステップ 12b へ。なければ引き続き他の機器からのカレント操作ログを待ち受ける。このステップで、PC と MD コンポはそれぞれ DTV からのカレント操作ログを受信する。

【0019】

ステップ 12b は、所定の属性で操作ログを検索するステップである。関連操作ログ抽出部 105 は、操作ログ蓄積管理部 102 に蓄積された操作ログから（ここでは PC や MD コンポ自身に蓄積されている操作ログ）、ステップ 12a で受信した他の機器のカレント操作ログに関連性のある操作ログを抽出する。ここでは、関連性を表す所定の属性を日時識別子の下に記述されている「日時」を例として説明する。例えば、DTV に対する操作入力が行われた日時、すなわち DTV から受信した操作ログが蓄積された時刻の前後の時間帯における所定の期間（例えば 21 時から 22 時の時間帯における過去 1 週間）に PC の操作ログ蓄積管理部 102 に蓄積された過去の操作履歴を検索する。図 9 に検索された関連操作ログの一例を示す。同様に、図 10 は MD コンポについての検索された関連操作ログの一例である。

【0020】

ステップ 12c は、関連操作ログの有無確認ステップである。関連操作ログ抽出部 105 は、ステップ 12b での検索の結果から、関連した操作ログの有無を検出する。関連する操作ログがあればステップ 12d へ、なければステップ 12a に戻り、他の機器からのカレント操作ログを待ち受ける。

【0021】

ステップ12dは、送信メッセージの作成ステップである。関連操作ログ抽出部105は、カレント操作ログを受け取った機器への関連操作ログを送信するメッセージを作成する。図11、図12はそれぞれPC、MDコンボからDTVに送信するメッセージの一例である。

【0022】

ステップ12eは、関連操作ログの送信ステップである。関連操作ログ送信部106は、ステップ12dで作成されたメッセージを、カレント操作ログの送信元へ返信する。ここでは、PCとMDコンボからそれぞれ、図11、図12に示すメッセージがDTVへ送信される。

【0023】

ステップ12fは、機器の電源の確認ステップである。ここでは、機器の電源がオンかオフかを判断する。オフの場合はステップを終了する。オンであればステップ12aに戻り、他の機器からのカレント操作ログを待ち受ける。

【0024】

次に、処理手順3について図6のフローチャートを用いて説明する。ここでは、PCとMDコンボからの関連操作ログを受信するDTVの動作を例として説明する。

【0025】

ステップ13aは、他の機器からの関連操作ログを受け付けるステップである。関連操作ログ受信部107は、カレント操作ログ送信部103によるカレント操作ログの送信と同期して、カレント操作ログ送信後から所定の期間、他の機器からの関連操作ログを受け付ける。所定の期間内に関連操作ログを受信すればステップ13bへ。なければカレント操作ログ送信部103からの同期信号を待ち受ける。このステップで、DTVはPCとMDコンボからの関連操作ログを受信する。

【0026】

ステップ13bは、関連操作ログの数を算出するステップである。関連操作ログ解釈部108は、機器ごとにステップ13aで受信した関連操作ログの数を数

えて、その操作頻度により機器を順位付けする。

【0027】

ステップ13cは、ユーザに関連操作ログを提示するステップである。関連操作ログ提示部109は、ステップ13bで決定された機器の操作頻度順位に従って、受信した関連操作ログをユーザIF1001を介してユーザに提示する。図13はユーザに提示される関連操作ログの一例である。このユーザは平日は21時53分以降にPCを起動しており、土曜日と日曜日にはMDコンボを操作している。

【0028】

ステップ13dは、ユーザの状況に合った操作ログの有無確認ステップである。ユーザは、ステップ13cで提示された関連操作ログの中に、現在の自分の状況に合った操作ログがあるかを確認する。すなわち、自分が今からしようと思った操作があるかどうかを確認する。あればステップ13eへ。なければ本手順を終了する。

【0029】

ステップ13eは、関連操作ログの選択ステップである。ユーザは、ステップ13cで提示された関連操作ログの中に自分がこれからしようと思った操作があれば、その関連操作ログをユーザIF1001により選択する。ここでは、現在が平日なので、ユーザがPCのブート(b o o t)とメーラ(m a i l e r)の起動を選択したものとする。

【0030】

ステップ13fは、連携操作内容の生成ステップである。連携操作内容決定部110は、ステップ13eで選択された関連操作ログから、連携操作を依頼する機器への連携操作内容のメッセージを生成する。例えば、図14に示すようなDTVからPCへ送信されるメッセージが生成される。ここでの連携操作内容は、PCをブートし、メーラを起動することである。

【0031】

ステップ13gは、連携操作内容の送信ステップである。連携操作内容送信部111は、ステップ13fで作成された連携操作内容を該当する機器へ送信する

【0032】

最後に、処理手順4について説明する。ここでは、DTVからの連携操作内容メッセージをPCが受け取る際の動作を例として説明する。連携操作内容受信部112は、関連操作ログを送信した相手の機器からの連携操作内容メッセージを受信する。受信したメッセージは機器制御部へと渡されて実行される。図14の例では、PCがブートされた後、メーラが起動される。

【0033】

以上、処理手順1～4で説明したように、第1の実施の形態によれば、複数機器の分散管理された操作ログを、機器に対する操作イベントが発生するごとに関連する操作ログを相互に通信することにより、機器間での関連した操作を発見するとともにユーザに提示して、複数機器の連携制御を容易に実現できる。

【0034】

具体的には、複数機器の操作履歴から操作の関連性を抽出し、操作ログを連携制御に用いることによって、ユーザが平日にDTVで21時のドラマを見た後は必ずPCを立ち上げて友人にメールを送っているので、21時のドラマが終わってDTVの電源をオフにすると、これに連携してPCを起動させ、メーラを立ち上げるなどといった、ユーザの状況に合わせた機器連携を実現できる。

【0035】

(第2の実施の形態)

第2の実施の形態は、ユーザに関連操作ログを提示する際に、属性値の出現頻度によりログをグループ化してユーザに提示することにより、第1の実施の形態に比して、連携操作内容の決定を更に容易にするものである。

【0036】

以下、第2の実施の形態の動作を図15のフローチャートを用いて説明する。ただし、第1の実施の形態の動作を構成する4つの処理手順のうち、処理手順3のみが異なるので、その部分のみを図15のフローチャートを用いて説明する。

【0037】

ステップ2aは、他の機器からの関連操作ログを受け付けるステップである。

関連操作ログ受信部107は、カレント操作ログ送信部103によるカレント操作ログの送信と同期して、カレント操作ログ送信後から所定の期間、他の機器からの関連操作ログを受け付ける。所定の期間内に関連操作ログを受信すればステップ2bへ。なければカレント操作ログ送信部103からの同期信号を待ち受ける。

【0038】

ステップ2bは、属性値の出現頻度の算出ステップである。関連操作ログ解釈部108は、機器ごと、記述子ごとに、各属性値の出現頻度を数える。

【0039】

ステップ2cは、属性値の出現頻度による操作ログのグループ化ステップである。関連操作ログ解釈部108は、出現頻度により属性を順位付けし、例えば図16に示すようにグループ化する。図16の例では、PCの操作ログがboot（PCの起動）やactivate（アプリケーションの起動）などの属性でグループ化されている。属性値の右横に記載されている数値はその属性値の発生頻度である。この例では、過去1週間にユーザはアプリケーションを20回起動しており、その内訳は、メーラ10回、ブラウザ5回、エディタ3回、イメージビューワ2回である。

【0040】

ステップ2dは、グループ化された関連操作ログをユーザに提示するステップである。関連操作ログ提示部109は、ステップ2cでグループ化された関連操作ログを、ユーザIF1001を介してユーザに提示する。

【0041】

ステップ2eは、ユーザの状況に合った操作ログの有無確認ステップである。ユーザは、ステップ2dで提示されたグループ化された関連操作ログの中に、現在の自分の状況に合った操作ログがあるかを確認する。すなわち、自分が今からしようと思った操作があるかどうかを確認する。あればステップ2fへ。なければ本手順を終了する。

【0042】

ステップ2fは、関連操作ログの選択ステップである。ユーザは、ステップ2

dで提示されたグループ化された関連操作ログの中に自分がこれからしようと思った操作があれば、その関連操作ログをユーザ I F 1 0 0 1 のカーソル操作などにより選択する。例えば、図 1 6 中に白丸（非選択）及び黒丸（選択）で示すように、関連操作ログの選択をチェックボックスなどのインタフェースで実現できる。

【0043】

ステップ 2 g は、関連操作ログの属性値の選択ステップである。ユーザは、ステップ 2 d で提示されたグループ化された関連操作ログの中に自分がこれからしようと思った属性値があれば、その属性値をユーザ I F 1 0 0 1 のカーソル操作などにより選択する。例えば、図 1 6 では、アプリケーション識別子の属性値ごとにグループ化されているが、グループ化された属性値は発生頻度順にプルダウンメニューのように表示することにより、過去、ユーザが今の時間帯に他の機器で使用したアプリケーションを簡単に選択することができる。図 1 6 の例では、太線で示されているように、メーラ (M a i l e r - x x x) とエディタ (E d i t o r - x x x) が選択されている。

【0044】

ステップ 2 h は、連携操作内容の生成ステップである。連携操作内容決定部 1 1 0 は、ステップ 2 f 及び 2 g で選択された関連操作ログ及び属性値から、連携操作を依頼する機器への連携操作内容のメッセージを生成する。

【0045】

ステップ 2 i は、連携操作内容の送信ステップである。連携操作内容送信部 1 1 1 は、ステップ 2 h で作成された連携操作内容を該当する機器へ送信する。ここでは、DTV から PC へ、PC のブートと、メーラ及びエディタの起動とが連携操作内容として送信されることになる。

【0046】

以上説明したように、第 2 の実施の形態によれば、ユーザに関連操作ログを提示する際に、属性値の出現頻度によりログをグループ化してユーザに提示することにより、ユーザが簡単に属性値を指定できるので、連携操作内容の決定が容易になる。

【 0 0 4 7 】

(第 3 の実施の形態)

第 3 の実施の形態は、機器ごとにまとめてユーザに提示した関連操作ログの属性値をユーザが自由に変更できるように考慮したものであり、ユーザは提示された関連操作ログの属性値を自由に編集して連携操作内容を記述することができる。以下、第 3 の実施の形態の動作を図 1 7 のフローチャートを用いて説明する。ただし、図 1 7 中のステップ 3 a ～ 3 j のうち、第 2 の実施の形態の動作を表す図 1 5 のフローチャートとの相違点であるステップ 3 h のみ説明する。

【 0 0 4 8 】

ステップ 3 h は、属性値の入力ステップである。ユーザは、ステップ 3 d で提示された関連操作ログの中に属性値を変更入力すれば連携操作内容として使えるものがあれば、その属性値をユーザ I F 1 0 0 1 により入力する。図 1 8 は、ユーザがこれまで当該時間帯には操作していない D r a w - s o f t - x x x を連携して起動したいと考えて、ログを選択し、< A p p l i c a t i o n I D > の属性値を追加入力した例である。これにより、図 1 8 の下段に示すような連携操作内容が生成され、連携機器である P C に送信される。

【 0 0 4 9 】

以上説明したように、第 3 の実施の形態によれば、ユーザに提示した関連操作ログの属性値をユーザが自由に変更できるので、その場で自由に機器連携の設定ができる。

【 0 0 5 0 】

(第 4 の実施の形態)

第 4 の実施の形態は、複数の属性値を組み合わせる連携操作内容をユーザが簡単に作成できるよう考慮したものであり、ユーザは任意の属性に対して関連操作ログから作成されたプルダウンメニューから属性値を選択するだけで簡単に連携操作内容を作成することができる。以下、第 4 の実施の形態の動作を図 1 9 のフローチャートを用いて説明する。ただし、図 1 9 中のステップ 4 a ～ 4 h のうち、第 2 の実施の形態の動作を表す図 1 5 のフローチャートとの相違点であるステップ 4 e ～ 4 g のみ説明する。

【0051】

ステップ4 eは、属性（操作ログ記述子）の選択ステップである。ユーザは、図20に示す＜新規連携操作内容：初期状態＞において属性を、ユーザIF1001のカーソル操作などにより選択する。例えば、図20では、属性＜Device ID＞を選択すると、プルダウンメニューとして、「PC. xxx-net」、「HDD. xxx-net」、「MD. xxx-net」が表示される。これらの表示は、他の機器から送信された関連操作ログの属性＜Device ID＞の属性値を参照することによりなされる。

【0052】

ステップ4 fは、属性値の選択ステップである。ユーザは、ステップ4 eで表示された属性値を、ユーザIF1001のカーソル操作などにより選択する。例えば、図20では「PC. xxx-net」が選択されている。

【0053】

ステップ4 gは、連携操作内容の作成終了判定ステップである。ユーザは、指定したい属性と属性値がなくなるまで、ステップ4 e及び4 fを繰り返す。ユーザが連携操作内容の終了をユーザIF1001により意思表示すれば（例えば終了ボタンの押下や終了GUIのクリックなど）、作成された連携操作内容をステップ4 hで連携する機器に送信する。図20の例では、メールを送ったことのある「ppp.co.jp」さんに、ハードディスクレコーダ（HDD. xxx-net）に記録されているコンテンツ（B-xxx.mp2）を送信するメッセージが作成される。

【0054】

以上説明したように、第4の実施の形態によれば、ユーザは任意の属性に対して関連操作ログから作成されたプルダウンメニューから属性値を選択するだけで簡単に連携操作内容を作成することができる。

【0055】

（第5の実施の形態）

第5の実施の形態は、カレント操作ログに対して、過去にユーザが選択した連携操作内容を利用できるよう考慮したものである。第5の実施の形態の構成図を

図 2 1 に示す。図 2 に示した第 1 の実施の形態との相違点は、カレント操作ログとユーザが決定した連携操作内容とを対応付けて蓄積する連携操作内容蓄積管理部 2 0 1 を付加したことである。

【0056】

以上のように構成された第 5 の実施の形態の動作を、図 2 2 のフローチャートを用いて説明する。ただし、第 1 の実施の形態の動作である図 6 のフローチャートとの相違点であるステップ 5 a ～ 5 c のみ説明する。

【0057】

ステップ 5 a は、過去の連携操作内容の確認ステップである。連携操作内容蓄積管理部 2 0 1 は、カレント操作ログ送信部 1 0 3 によるカレント操作ログの送信と同期して、カレント操作ログと関連する連携操作内容を、連携操作内容蓄積管理部 2 0 1 より抽出する。抽出は、操作ログ記述子の属性値の（部分）一致などにより行うことができる。関連する連携操作内容があればステップ 5 b へ。なければステップ 1 3 a で他の機器からの関連操作ログを待ち受ける。

【0058】

ステップ 5 b は、関連する過去の連携操作内容をユーザへ提示するステップである。関連操作ログ提示部 1 0 9 は、連携操作内容蓄積管理部 2 0 1 で抽出された、カレント操作ログに関連する過去の連携操作内容を、図 1 3 に示すような操作ログとして G U I でユーザに提示する。そして、ユーザによる関連操作ログの選択ステップ 1 3 d へ進む。

【0059】

ステップ 5 c は、連携操作内容とカレント操作ログの蓄積ステップである。連携操作内容蓄積管理部 2 0 1 は、ステップ 1 3 d ～ 1 3 f で選択・生成された関連操作内容をカレント操作ログと対応付けて蓄積する。蓄積後、連携操作内容はステップ 1 3 g で連携機器へ送信される。

【0060】

以上説明したように、第 5 の実施の形態によれば、カレント操作ログとユーザが決定した連携操作内容とを対応付けて記憶しておくことにより、現在の操作に関連して過去にユーザが選択した連携操作内容を簡単に選択できるので、より簡

単確実に機器連携を実現できる。

【0061】

なお、連携操作内容のユーザによる選択回数も連携操作内容蓄積管理部201に蓄積しておくことにより、選択回数に応じて連携操作内容を順序付けてユーザにわかりやすく提示できることは言うまでもない。

【0062】

(第6の実施の形態)

第6の実施の形態は、カレント操作ログに引き続くユーザの機器操作を予測して連携操作内容を提示することにより、更に簡単に連携操作内容を指定できるように考慮したものである。第6の実施の形態の構成図を図23に示す。図21に示した第5の実施の形態との相違点は、他の機器から受信した関連操作ログ及び／又は連携操作内容蓄積管理部201に蓄積されている連携操作内容及びカレント操作ログから、ユーザの次の連携操作内容を予測する連携操作内容予測部301を付加したことである。

【0063】

以上のように構成された第6の実施の形態の動作を、図24のフローチャートを用いて説明する。ただし、図24中のステップ6a～6dのうち、第5の実施の形態の動作である図22のフローチャートとの相違点であるステップ6a～6cのみを説明する。

【0064】

ステップ6aは、関連操作ログのグループ化ステップである。連携操作内容予測部301は、連携操作内容蓄積管理部201に蓄積されている連携操作内容を所定の属性の組み合わせでグループ化する。例えば、機器識別子<Device ID>、機器連携識別子<Device From><Device To>、コンテンツ識別子<Content ID>に含まれる属性値の組み合わせでグループ化する。図25(a)の例では、<Content ID>の属性値が「A-xxxxxx」で共通であり、かつ<Device ID>と<Device From>の属性値が「HDD. xxx-net」で共通の連携操作内容がグループ化されている。

【0065】

ステップ6bは、カレント操作ログに関連するグループを特定するステップである。連携操作内容予測部301は、カレント操作ログの<DeviceID>と<Command>について共通の属性値を持つグループ化された連携操作内容を特定する。共通の属性値を持つグループがあればステップ6cに進む。なければステップ13dに進む。

【0066】

ステップ6cは、ユーザ操作行動の予測・提示ステップである。例えば、連携操作内容予測部301は、ステップ6bで特定された連携操作内容の<ContentID>をカレント操作ログのもので置換する。図25(a)中の<ContentID>の「A-xxxxxx」が、図25(b)では「B-xxxxxx」に置換されている。すなわち、このユーザは過去に、コンテンツ「A-xxxxxx」をHDDレコーダに録画したあとPCにコピーしている実績があるので、今、コンテンツ「B-xxxxxx」を録画するというイベントが起きた際に、今後それをPCにコピーすると予測している。予測結果をユーザに提示した後、ステップ13d～13gが実行される。

【0067】

以上説明したように、第6の実施の形態によれば、他の機器から受信した関連操作ログや過去の連携操作内容を所定の属性でグループ化し、グループ化された関連操作ログとカレント操作ログの異なる属性値を置換することによりユーザの次の操作行動を予測し、より簡単に機器の連携操作が実現できる。

【0068】

(第7の実施の形態)

第7の実施の形態は、機器のステータス変化を検出して、ステータス変化に応じてユーザが現在何をしているかに合わせたサービスを提供するように考慮したものである。第7の実施の形態の構成図を図26に示す。図2に示した第1の実施の形態との相違点は、所定のタイミングで機器のステータスを検出する機器ステータス検出部401と、検出したステータスに関する機器ステータス情報を蓄積管理する機器ステータス蓄積管理部402と、機器ステータス情報を他の機器

に送信する機器ステータス情報送信部 4 0 3 と、他の機器からの機器ステータス情報を受信する機器ステータス情報受信部 4 0 4 とを付加したことである。

【 0 0 6 9 】

以上のように構成された第 7 の実施の形態の動作を、図 2 7 のタイミングチャートを用いて説明する。図 2 7 の例では、処理手順 7 a 及び 7 c が D T V により、処理手順 7 b 及び 7 d が P C によりそれぞれ実行されるものとする。

【 0 0 7 0 】

まず、処理手順 7 a では、機器ステータス検出部 4 0 1 及び機器ステータス蓄積管理部 4 0 2 により機器のステータス変化を検出して、機器ステータス情報送信部 4 0 3 により、所定のタイミングで機器のステータスやステータス変化を他の機器に知らせる。ここでは、D T V において C M (コマーシャルメッセージ) の開始を検出して P C にそのステータス情報を送信するものとする。C M 開始の検出は、単純にはモノラル信号からステレオ信号への変化の検出により行う。

【 0 0 7 1 】

処理手順 7 b では、機器ステータス情報受信部 4 0 4 は、他の機器から送信されてくるステータス情報（ここでは C M 開始情報）を受信する。ステータス情報の受信をトリガとして、P C の関連操作ログ抽出部 1 0 5 は、操作ログ蓄積管理部 1 0 2 から操作ログを抽出し、これを D T V へ返信する。このとき抽出された操作ログは例えばマウスの操作ログであり、同時にメーラが起動されていたものとする。

【 0 0 7 2 】

処理手順 7 c では、D T V の関連操作ログ受信部 1 0 7 は P C からのマウス操作ログを受信する。D T V の連携操作内容決定部 1 1 0 は、このユーザは T V を見ている、C M になるとマウスを操作してメールをチェックしていると判断し、連携操作内容送信部 1 1 1 により、現在の C M に関連するホームページの U R L とブラウザの起動メッセージを P C に送信する。C M に関する U R L は、例えばデータ放送から抽出することができる。

【 0 0 7 3 】

処理手順 7 d では、P C の連携操作内容受信部 1 1 2 は、D T V からのブラウ

が起動メッセージと、＜Content ID＞としてCMに関連したURLとを受信し、ユーザに対してそのホームページを提示する。

【0074】

以上説明したように、第7の実施の形態によれば、機器のステータス変化を検出し、ステータス変化に応じてユーザが現在何をしているかに合わせたサービスの提供ができる。

【0075】

(第8の実施の形態)

第8の実施の形態は、ハードウェアリソースに制限のある機器（例えばMDコンポ）が、ハードウェアリソースに余裕のある機器（例えばPC）に操作ログの蓄積及び連携操作内容の代理処理を依頼するように考慮したものである。第8の実施の形態の構成図を図28、図29に示す。図28は少ないハードウェアリソースを持つ機器中の、図29は多いハードウェアリソースを持つ機器中の、それぞれ操作ログ連携利用手段10のブロック図である。図2に示した第1の実施の形態との相違点は、代理処理のための機器従属関係設定部501を付加したことである（図28、図29）。

【0076】

次に、機器従属関係設定部501の動作を説明する。例えば、MDコンポのようなCPUの速度が遅くメモリも少ない機器は、PCでダウンロードした音楽をMDにチェックアウトするなどの際に、従属関係を設定する。すなわち、MDコンポでの操作ログは発生するたびにPCに転送して蓄えられ、MDコンポと関連する他の機器の操作ログの解釈や蓄積はPCが代理実行する。これにより廉価な機器も他の機器と連携することができる。

【0077】

以上説明したように、第8の実施の形態によれば、ハードウェアリソースに制限のある機器が、ハードウェアリソースに余裕のある機器に操作ログの蓄積及び連携操作内容の代理処理を依頼するようにしたため、廉価な機器でも他の機器と容易に連携することができる。

【0078】

なお、利用履歴やプロフィールなどのユーザ情報をサービスプロバイダや可搬性のメモリで一括管理する場合、障害発生時にサービスの享受ができなくなり、更にセキュリティ、プライバシーに関するリスクが高い。

【0079】

これに対して、第8の実施の形態によれば、複数機器の操作ログを分散管理するとともに、相互に接続された機器各々が連携する操作の解釈機能などを相互に代行することにより、任意の機器が障害による通信不能状態や故障でも、ユーザの状況に合わせた機器連携が可能になる。

【0080】

【発明の効果】

以上説明してきたとおり、本発明によれば、複数機器の分散管理された操作ログを、機器に対する操作イベントが発生するごとに相互通信することにより、機器間での関連した操作を発見するとともにユーザに提示して、複数機器の連携制御を容易に実現することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明に係るシステムの全体構成例を示すブロック図である。

【図2】

本発明の第1の実施の形態における操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【図3】

本発明の第1の実施の形態における操作ログ連携のタイミングチャートである。

【図4】

図3中の処理手順1の詳細を示すフローチャートである。

【図5】

図3中の処理手順2の詳細を示すフローチャートである。

【図6】

図3中の処理手順3の詳細を示すフローチャートである。

【図 7】

操作ログ記述子の一例を示す図である。

【図 8】

D T V のオフ時に送信されるカレント操作ログの一例を示す図である。

【図 9】

21時から22時の時間帯における過去1週間のP C の操作ログの一例を示す図である。

【図 10】

21時から22時の時間帯における過去1週間のM D コンポの操作ログの一例を示す図である。

【図 11】

機器間での関連操作ログ送信メッセージの一例（P C からD T V へ）を示す図である。

【図 12】

機器間での関連操作ログ送信メッセージの一例（M D コンポからD T V へ）を示す図である。

【図 13】

ユーザに提示される関連操作ログの一例を示す図である。

【図 14】

連携操作内容の一例（D T V からP C へ）を示す図である。

【図 15】

本発明の第2の実施の形態の動作を表すフローチャートである。

【図 16】

本発明の第2の実施の形態における連携操作内容決定の一例を示す図である。

【図 17】

本発明の第3の実施の形態の動作を表すフローチャートである。

【図 18】

本発明の第3の実施の形態における連携操作内容決定の一例を示す図である。

【図 19】

本発明の第 4 の実施の形態の動作を表すフローチャートである。

【図 20】

本発明の第 4 の実施の形態における連携操作内容決定の一例を示す図である。

【図 21】

本発明の第 5 の実施の形態における操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【図 22】

本発明の第 5 の実施の形態の動作を表すフローチャートである。

【図 23】

本発明の第 6 の実施の形態における操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【図 24】

本発明の第 6 の実施の形態の動作を表すフローチャートである。

【図 25】

(a) 及び (b) は予測連携操作内容の決定プロセスの一例を示す図である。

【図 26】

本発明の第 7 の実施の形態における操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【図 27】

本発明の第 7 の実施の形態の動作を表すタイミングチャートである。

【図 28】

本発明の第 8 の実施の形態における少ないハードウェアリソースを持つ機器中の操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【図 29】

本発明の第 8 の実施の形態における多いハードウェアリソースを持つ機器中の操作ログ連携利用手段のブロック図である。

【符号の説明】

1 家電機器

2 LAN

3 W A N

4 ルー タ

1 0 操作ログ連携利用手段

1 0 1 機器操作検出部

1 0 2 操作ログ蓄積管理部

1 0 3 カレント操作ログ送信部

1 0 4 カレント操作ログ受信部

1 0 5 関連操作ログ抽出部

1 0 6 関連操作ログ送信部

1 0 7 関連操作ログ受信部

1 0 8 関連操作ログ解釈部

1 0 9 関連操作ログ提示部

1 1 0 連携操作内容決定部

1 1 1 連携操作内容送信部

1 1 2 連携操作内容受信部

2 0 1 連携操作内容蓄積管理部

3 0 1 連携操作内容予測部

4 0 1 機器ステータス検出部

4 0 2 機器ステータス蓄積管理部

4 0 3 機器ステータス情報送信部

4 0 4 機器ステータス情報受信部

5 0 1 機器従属関係設定部

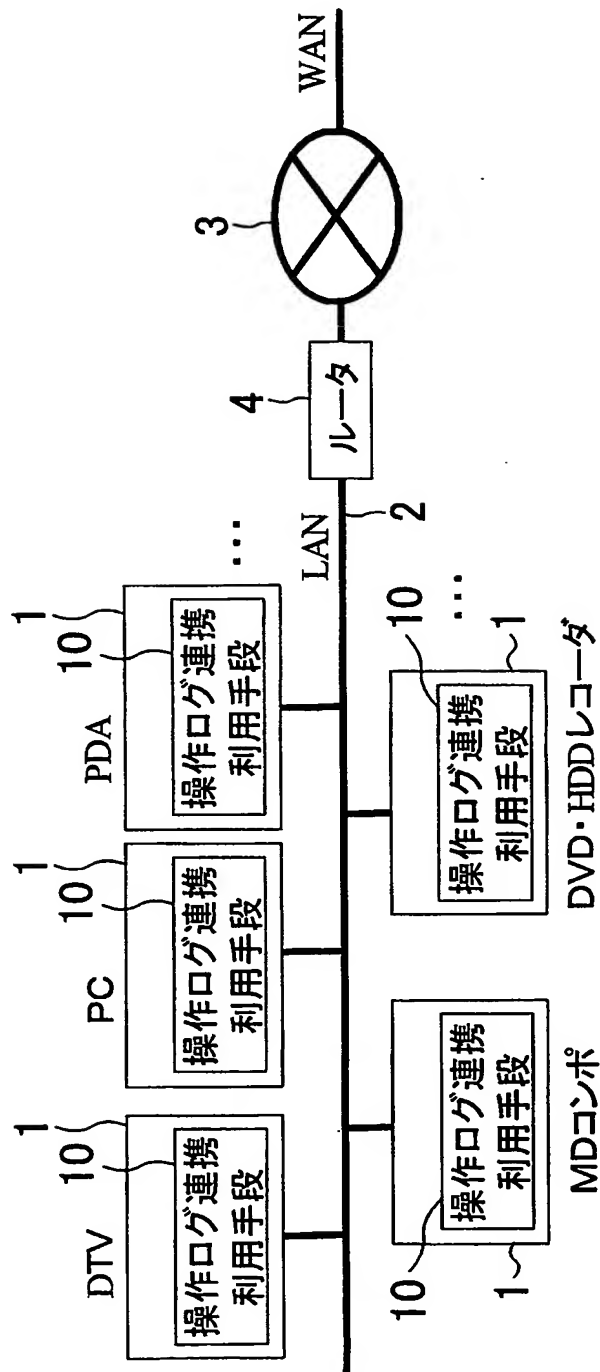
1 0 0 1 ユーザ I F

1 0 0 2 ネットワーク I F

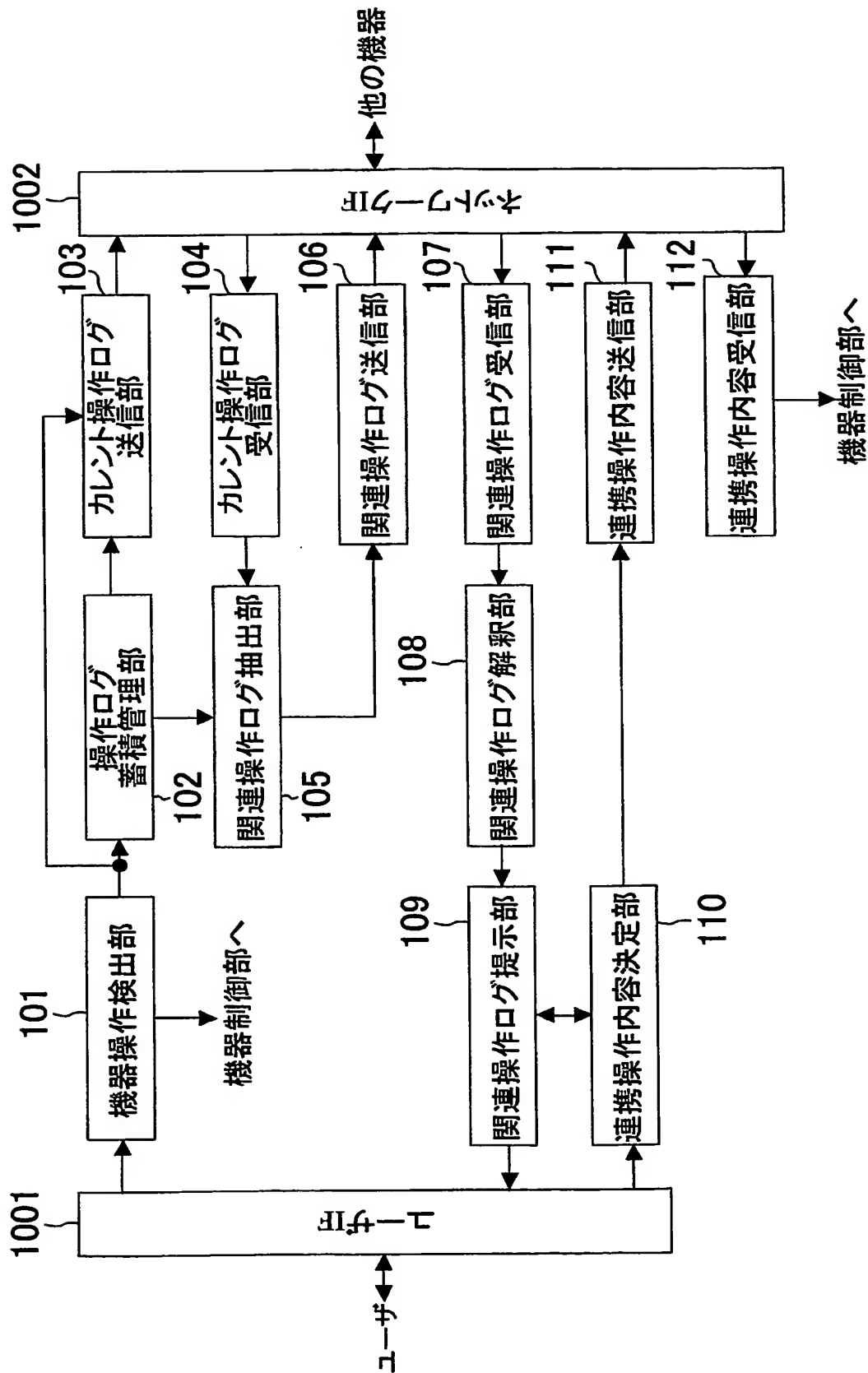
【書類名】

図面

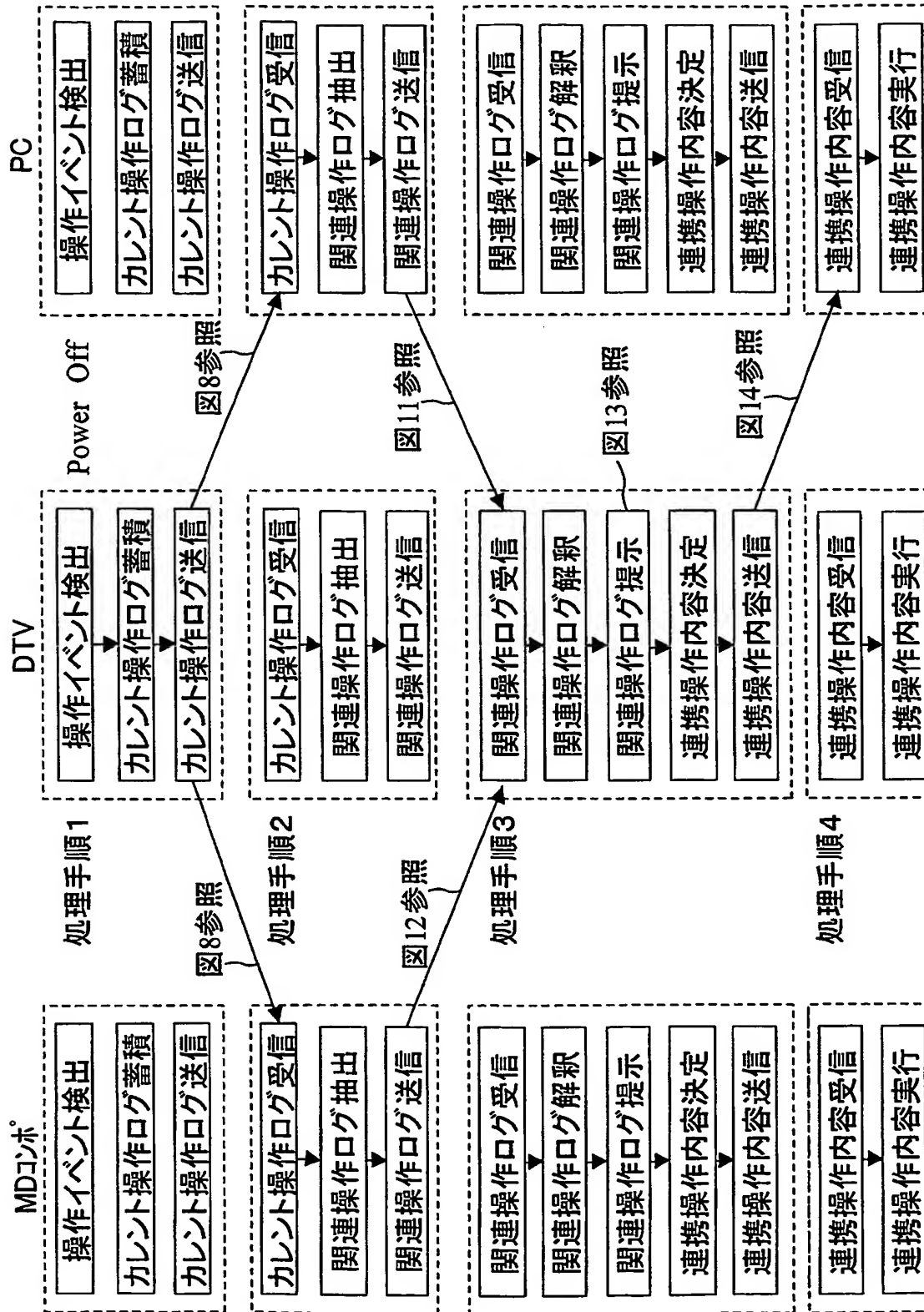
【図 1】



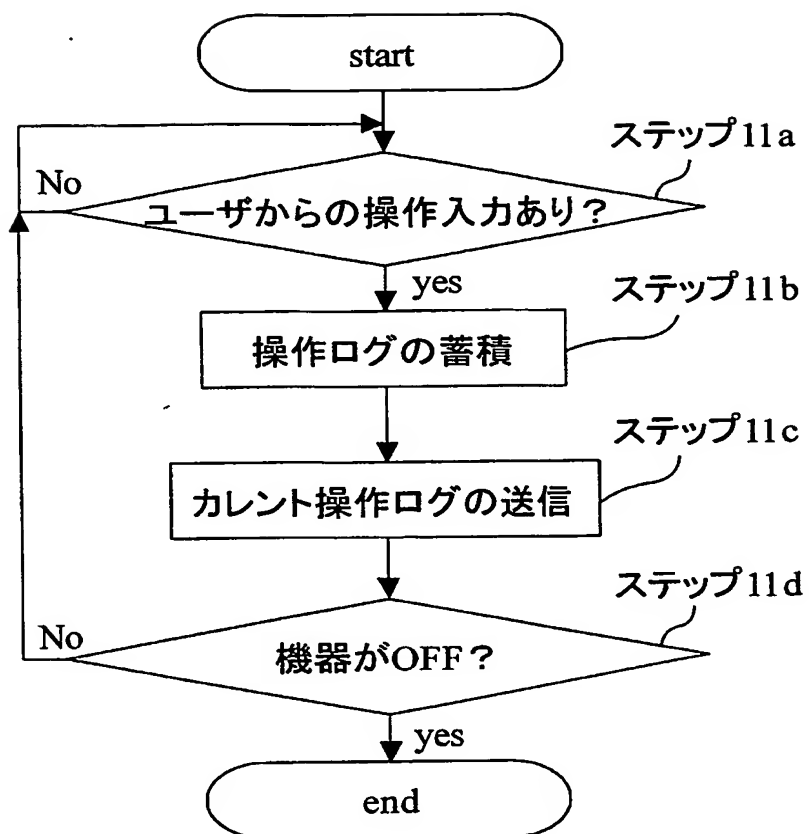
【図 2】



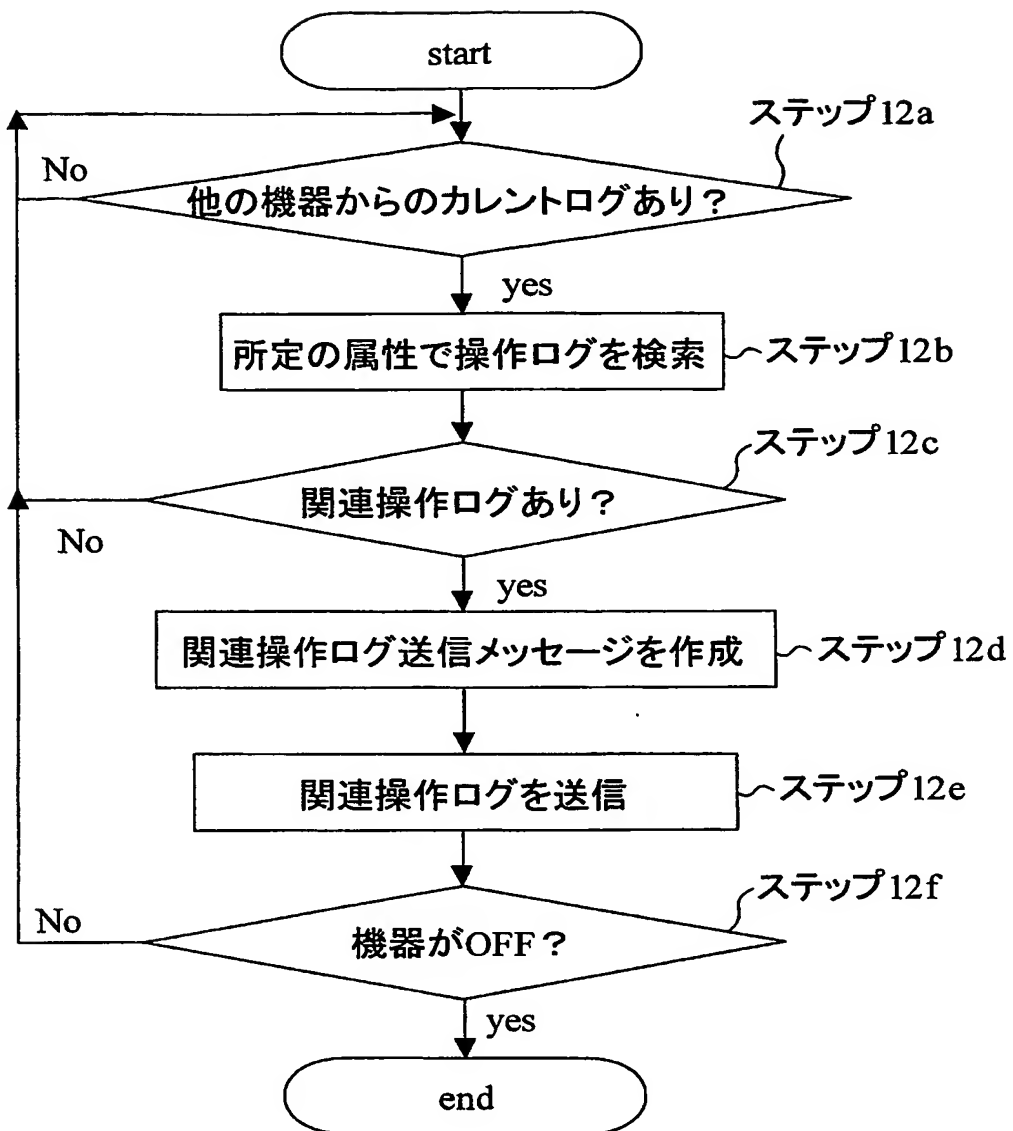
【図3】



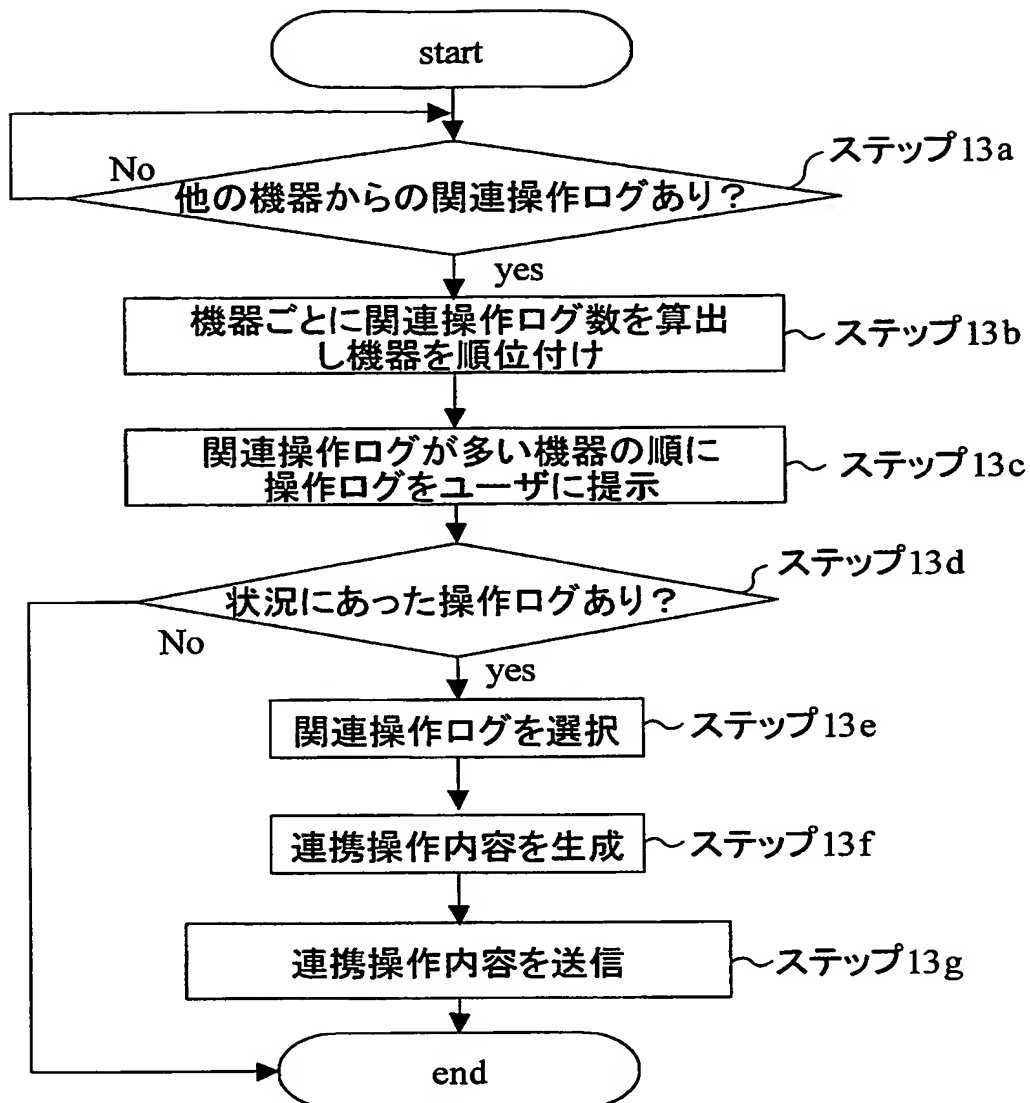
【図 4】



【図 5】



【図 6】



【図 7】

- ・日時識別子<Time>
yyyy/mm/dd/ hh/mm/ss: 例) 2002/09/25, Wed, 21:00:00
- ・操作識別子<Command>
PowerOn, PowerOff, VolUp, VolDown
Play, Record, Reserve, Send, Receive, Save, Delete, Update, Copy, Move, Boot, Activate
- ・ユーザ識別子<UserID>
xxx@yyy.co.jp
- ・機器識別子<DeviceID>
・機器レベル識別子<DevicePerformanceLevel>
・制御器識別子<ControllerID>
- ・ユーザ連携識別子<PersonTo>, <PersonFrom>
・機器連携識別子<DeviceTo>, <DeviceFrom>
- ・場所識別子<Location>
- ・コスト識別子<Cost>
- ・アプリケーション識別子<ApplicationID>
・メディア識別子<MediaID>
・コンテンツ識別子<ContentID>
・サービス識別子<ServiceID>
・オブジェクト識別子<ObjectID>

【図 8】

```
<OperationLog>
<DeviceID> Dtv.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L4 </DevicePerformanceLevel>
<Item>
<Time> 2002/09/25/Wed/20:57:00 </Time>
<Duration> 00:56:10 </Duration>
<Command> play </Command>
<ContentID> program://x-ch.osaka.tv/20020925210000-20020925215300 </ContentID>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/25/Wed/21:53:10 </Time>
<Command> PowerOff </Command>
</Item>
</OperationLog>
```

【図 9】

```
<OperationLog>
<DeviceID> PC.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L5 </DevicePerformanceLevel>

<Item>
<Time> 2002/09/18/Wed/21:54:13 </Time>
...

<Item>
<Time> 2002/09/19/Thu/21:53:12 </Time>
...

<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/21:53:04 </Time>
<Command> Boot </Command>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/21:55:20 </Time>
<Command> Activate </Command>
<ApplicationID> Mailer-xxx </ApplicationID>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/22:02:10 </Time>
<Command> Send </Command>
<PersonTo> xxx@yyy.co.jp </PersonTo>
</Item>

</OperationLog>
```

【図 10】

```
<OperationLog>
<DeviceID> MD.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L2 </DevicePerformanceLevel>

<Item>
<Time> 2002/09/21/Sat/21:53:11 </Time>
...

<Item>
<Time> 2002/09/22/Sun/21:57:52 </Time>
<Command> PowerOn </Command>
</Item>

<Item>
<Time> 2002/09/22/Sun/21:57:55 </Time>
<Command> Tuner </Command>
<MediaID> FM </MediaID>
<ContentID> program://FM.osaka/20020925220000-20020925225700 </ContentID>
</Item>

</OperationLog>
```


【図 11】

```
<RelatedLog>
<DeviceTo> DTV.xxx-net </DeviceTo>

<OperationLog>
<DeviceID> PC.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L5 </DevicePerformanceLevel>

<Item>
<Time> 2002/09/18/Wed/21:54:13 </Time>
...

<Item>
<Time> 2002/09/19/Thu/21:53:12 </Time>
...

<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/21:53:04 </Time>
<Command> Boot </Command>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/21:55:20 </Time>
<Command> Activate </Command>
<ApplicationID> Mailer-xxx </ApplicationID>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/24/Tue/22:02:10 </Time>
<Command> Send </Command>
<PersonTo> xxx@yyy.co.jp </PersonTo>
</Item>
</OperationLog>

</RelatedLog>
```

【図 12】

```
<RelatedLog>
<DeviceTo> DTV.xxx-net </DeviceTo>

<OperationLog>
<DeviceID> MD.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L2 </DevicePerformanceLevel>

<Item>
<Time> 2002/09/21/Sat/21:53:11 </Time>
...
<Item>
<Time> 2002/09/22/Sun/21:57:52 </Time>
<Command> PowerOn </Command>
</Item>
<Item>
<Time> 2002/09/22/Sun/21:57:55 </Time>
<Command> Tuner </Command>
<MediaID> FM </MediaID>
<ContentID> program://FM.osaka/20020925220000-20020925225700 </ContentID>
</Item>
</OperationLog>

</RelatedLog>
```

【図 13】

<DeviceID>	<Time>	<Command>	<ApplicationID>
PC.xxx-net	2002/09/24/ Tue/21:53:04	Boot	
PC.xxx-net	2002/09/24/ Tue/21:55:04	Activate	Mailer-xxx
PC.xxx-net	2002/09/23/ Mon/21:55:22	Boot	
PC.xxx-net	2002/09/23/ Mon/21:57:04	Activate	Mailer-xxx
PC.xxx-net	2002/09/20/ Fri/21:53:50	Boot	
PC.xxx-net	2002/09/20/ Fri/21:55:50	Activate	Mailer-xxx
PC.xxx-net	2002/09/19/ Thu/21:53:12	Boot	
PC.xxx-net	2002/09/19/ Thu/21:55:12	Activate	Mailer-xxx
PC.xxx-net	2002/09/18/ Wed/21:54:13	Boot	
PC.xxx-net	2002/09/18/ Wed/21:56:13	Activate	Mailer-xxx
<MediaID> <ContentID>			
MD.xxx-net	2002/09/22/ Sun/21:57:52	PowerOn	
MD.xxx-net	2002/09/22/ Sun/21:57:55	Tuner	FM Osaka/ 20020922220000-20020922225700
MD.xxx-net	2002/09/21/ Sat/21:53:11	PowerOn	
MD.xxx-net	2002/09/21/ Sat/21:53:15	Tuner	FM Osaka/ 20020921220000-20020921225700

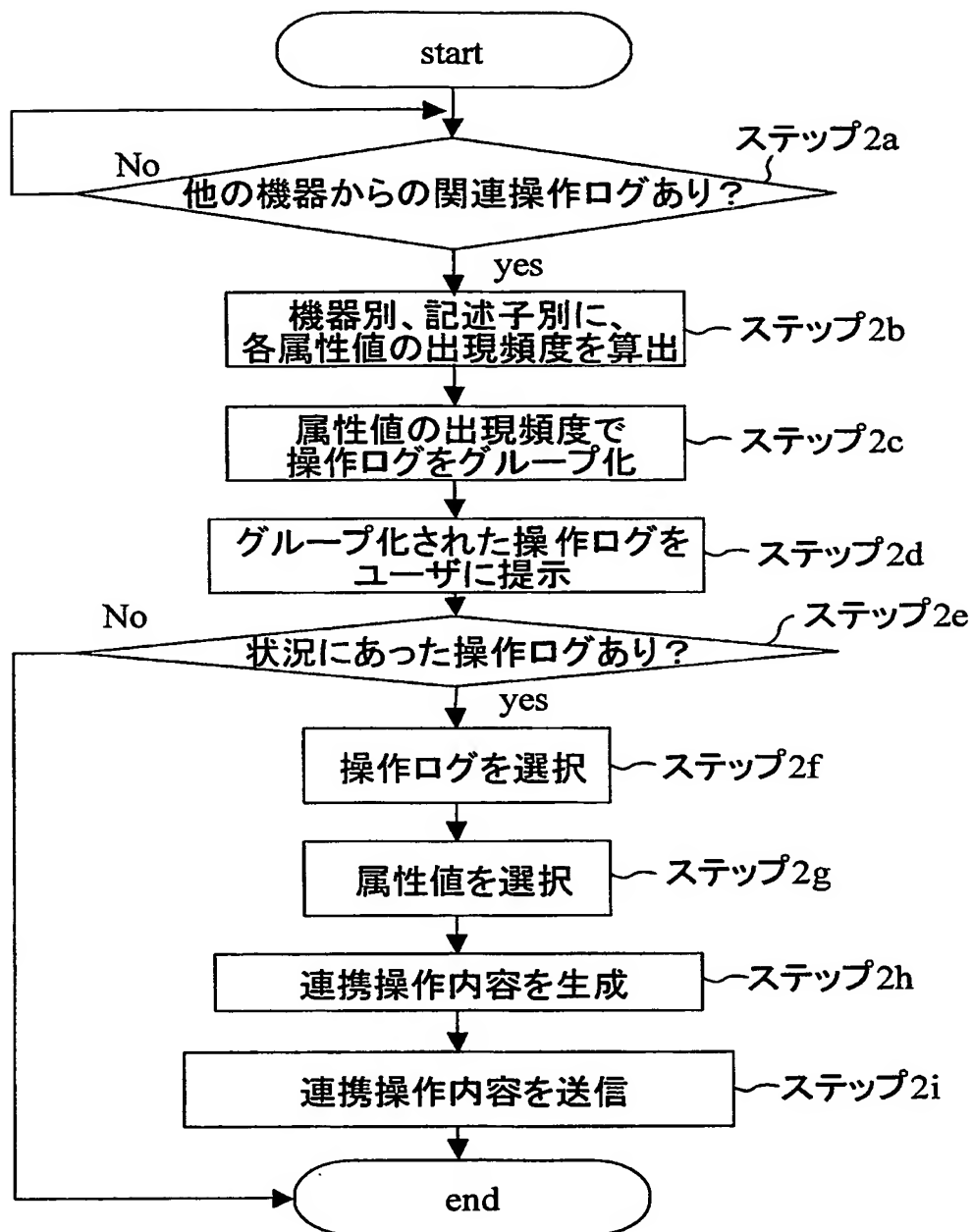
【図14】

<DeviceID>	<Time>	<Command>	<ApplicationID>
PC.xxx-net		Boot	
PC.xxx-net		Activate	Mailer-xxx

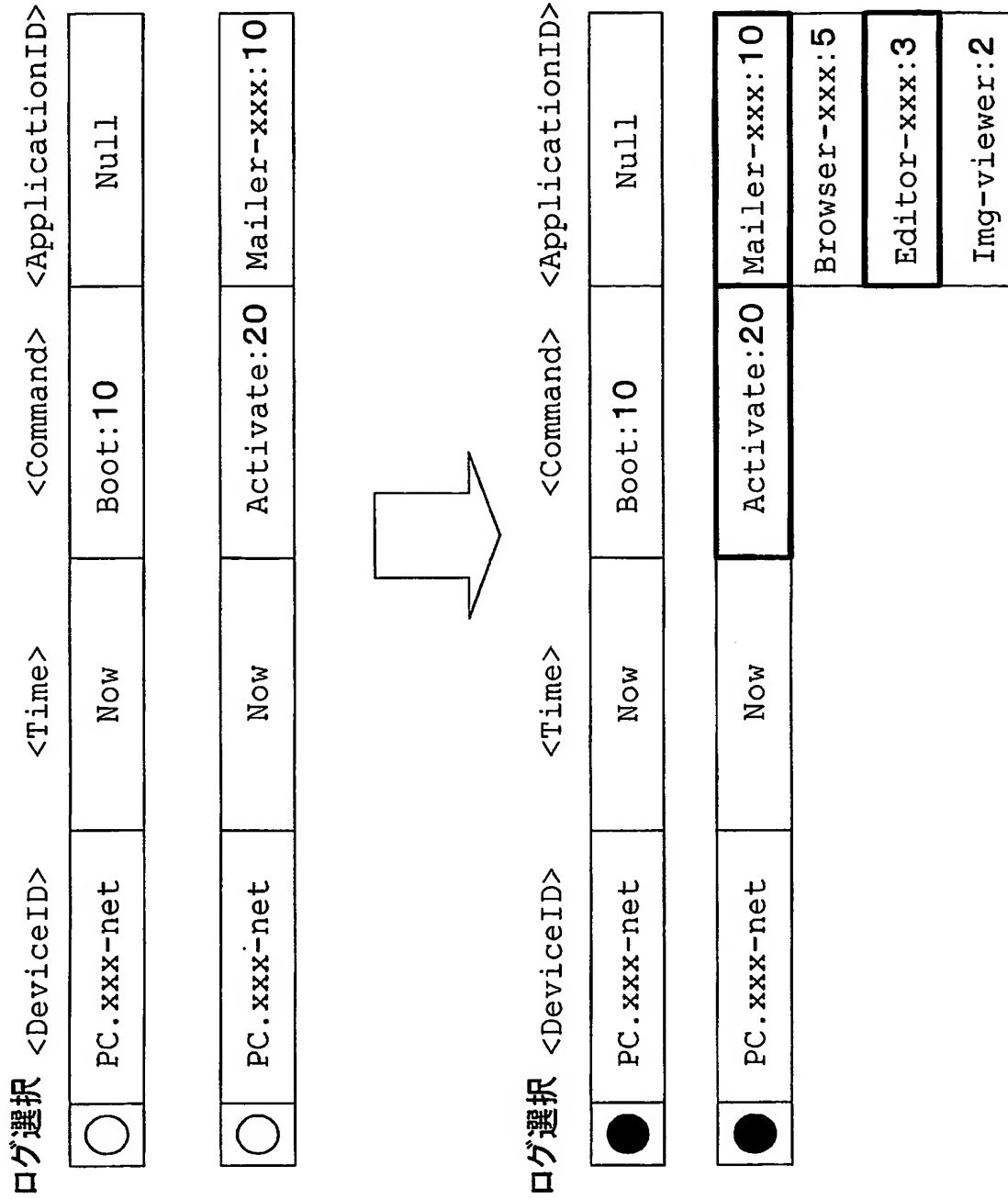


```
<CooperationRequest>
<DeviceID> PC.xxx-net </DeviceID>
<DevicePerformanceLevel> Device-L5 </DevicePerformanceLevel>
<Item>
<Time> Now </Time>
<Command> Boot </Command>
</Item>
<Item>
<Command> Activate </Command>
<ApplicationID> Mailer-xxx </ApplicationID>
</Item>
</CooperationRequest>
```

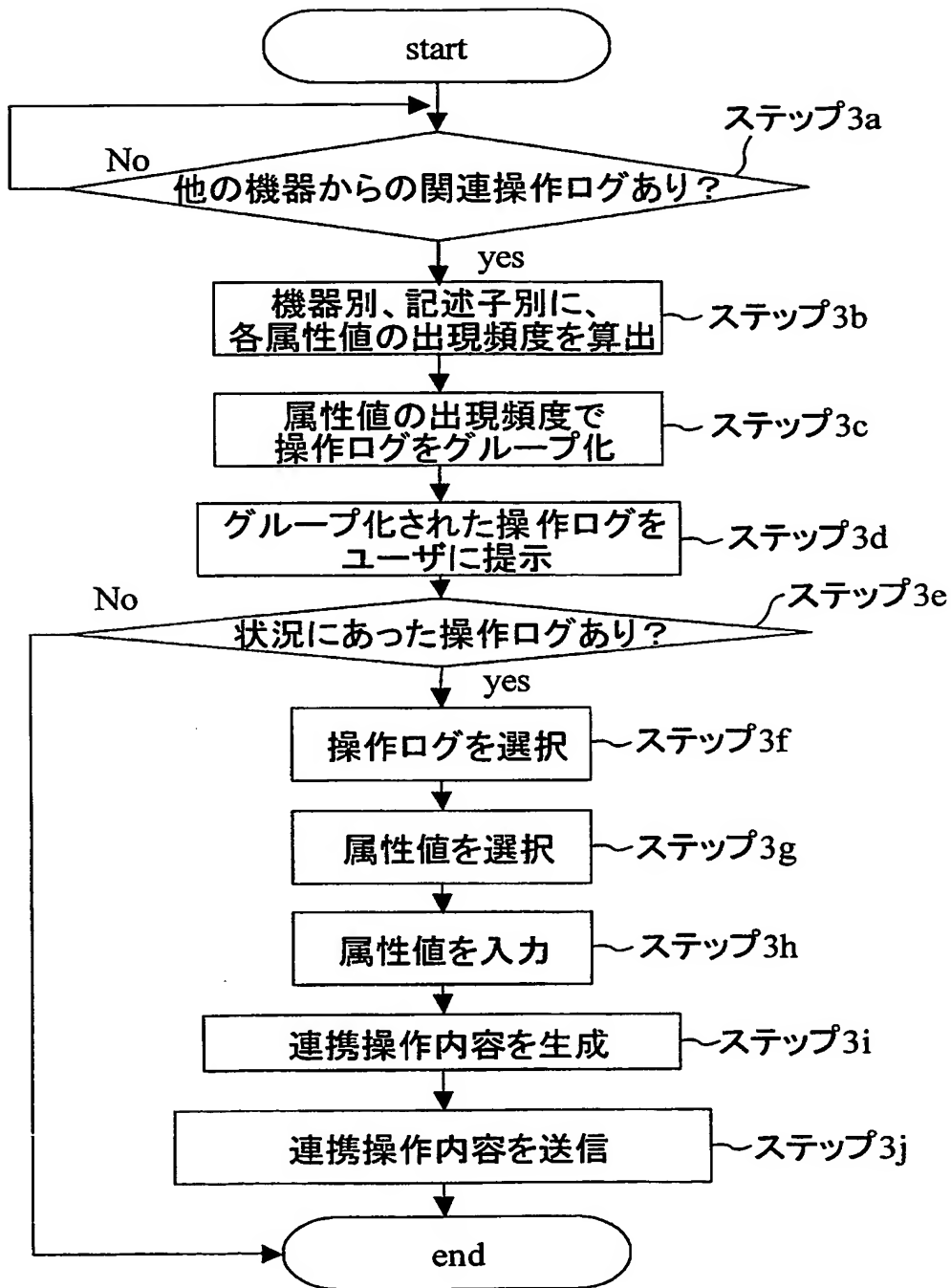
【図 15】



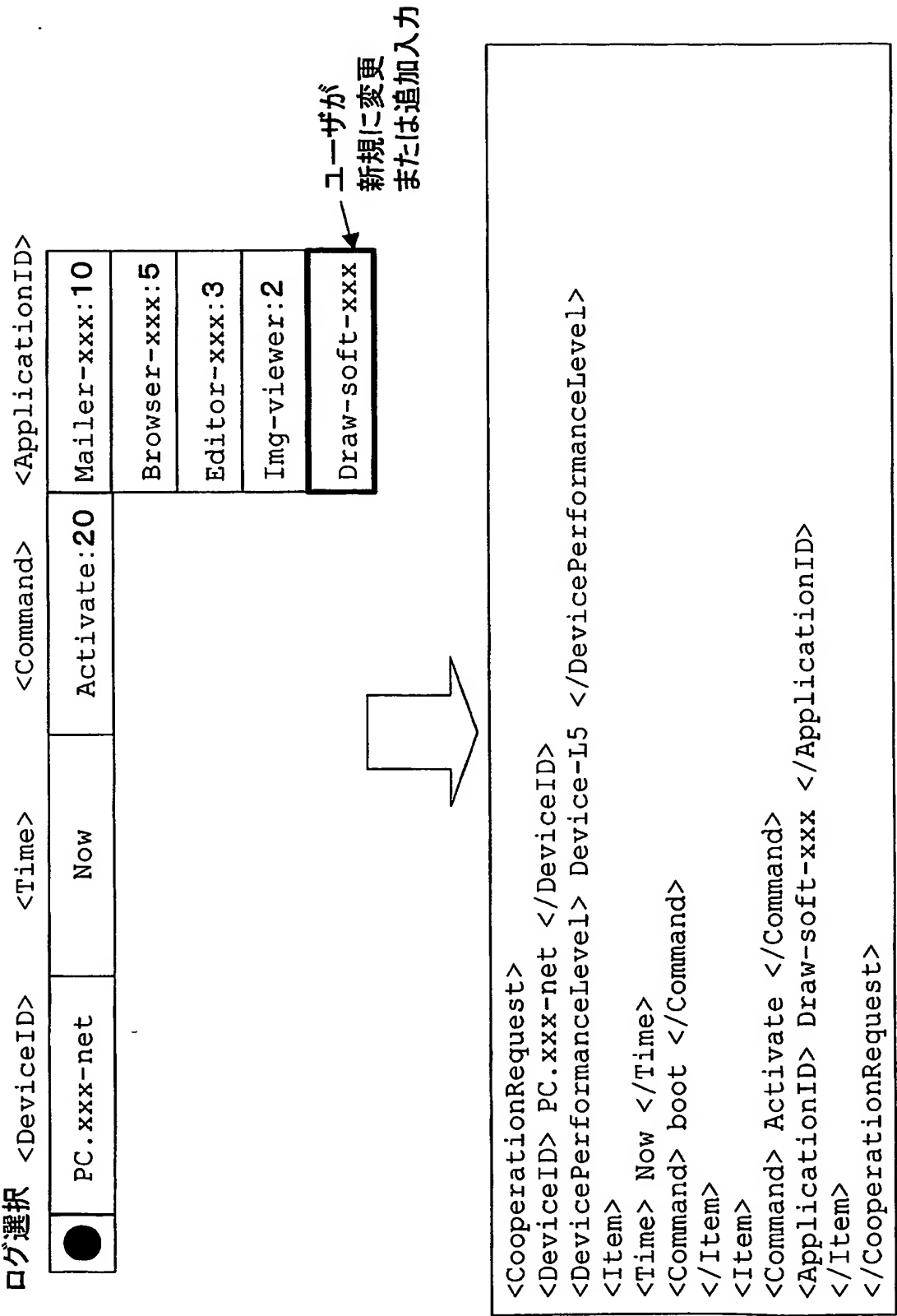
【図 16】



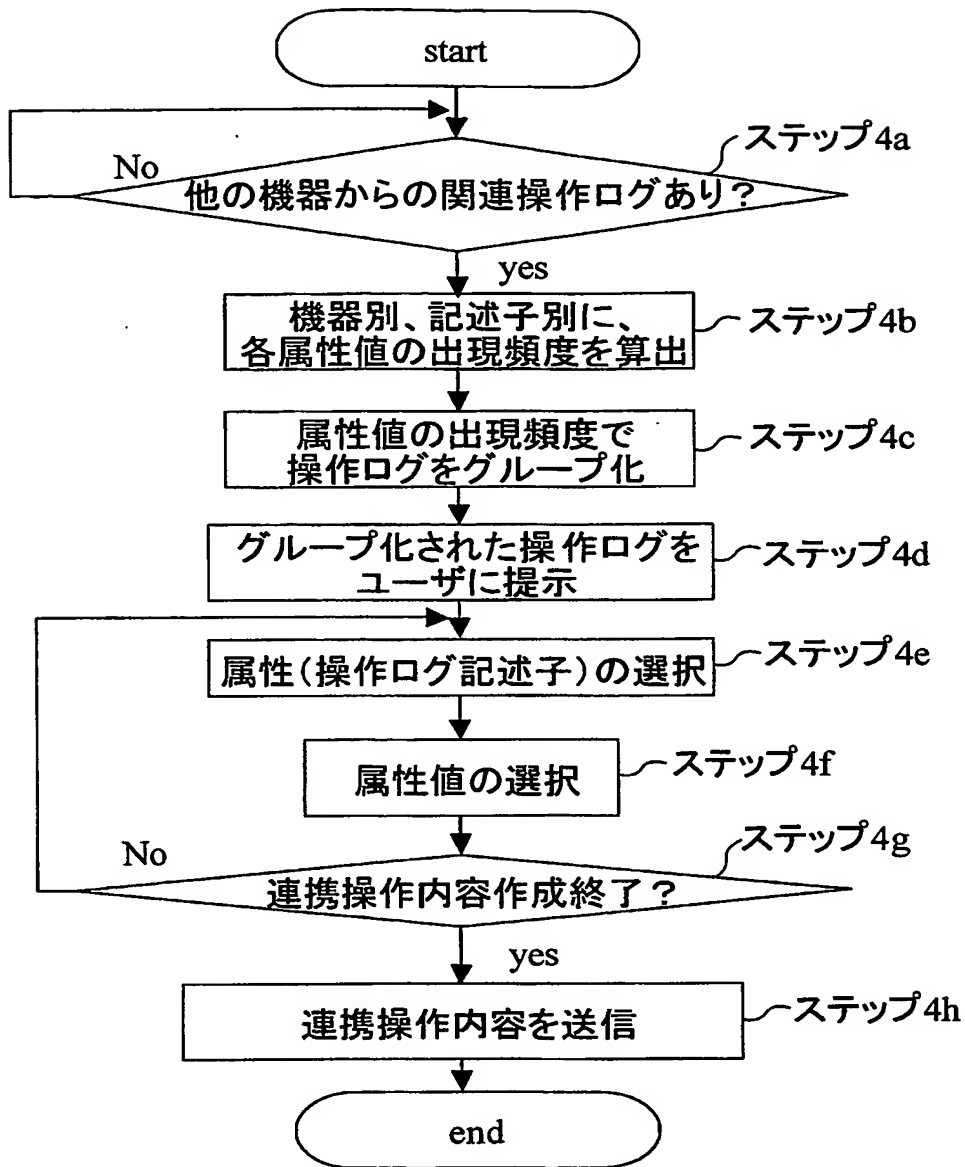
【図 17】



【図 18】



【図 19】



【図 20】

＜新規連携操作内容：初期状態＞

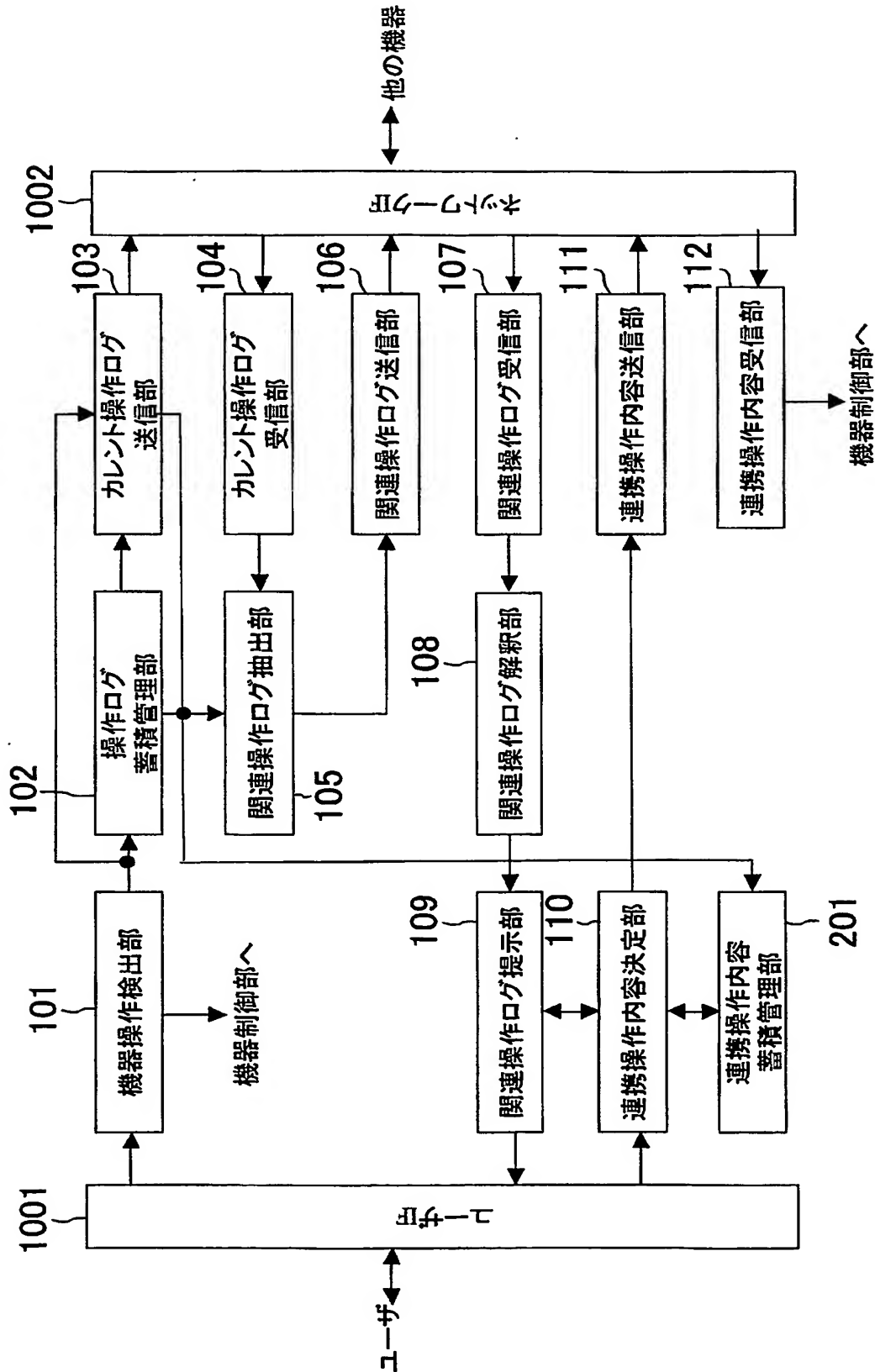
<DeviceID>	<Command>	<ApplicationID>	<PersonTo>	<ContentID>	<DeviceFrom>



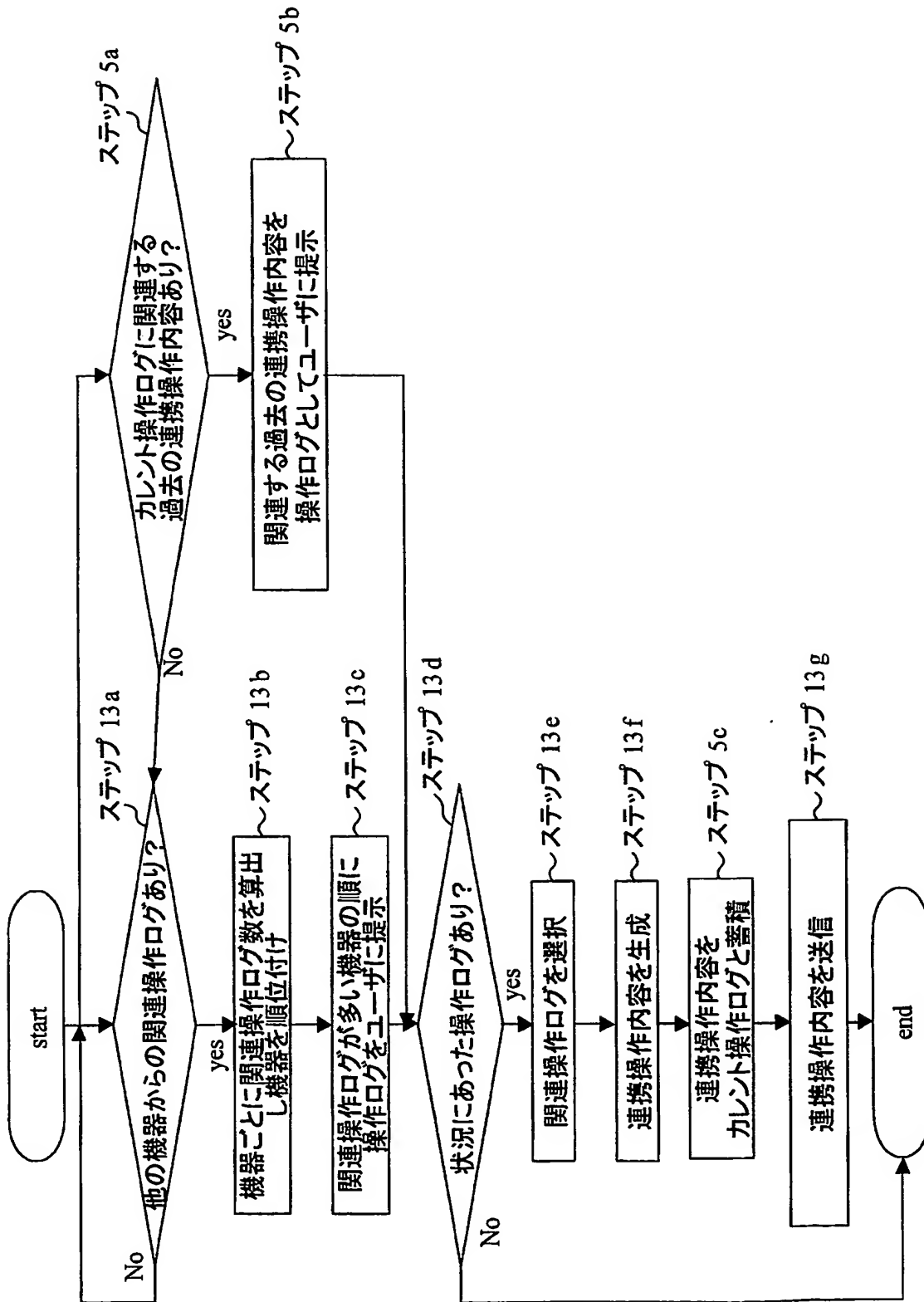
＜連携操作内容：プルダウンメニューによる選択後＞

<DeviceID>	<Command>	<ApplicationID>	<PersonTo>	<ContentID>	<DeviceFrom>
PC.xxx-net	Activate:20	Mailer-xxx:10	ppp.co.jp	B-xxx.mp2	HDD.xxx-net
PC.xxx-net	Activate:20	Mailer-xxx:10	ppp.co.jp	ttt.txt	
PC.xxx-net	Activate:20	MovieEditor:5		A-xxx.mp2	HDD.xxx-net
HDD.xxx-net	Rec			B-xxx.mp2	
MD.xxx-net	Rec			C-xxx.wav	PC.xxx-net

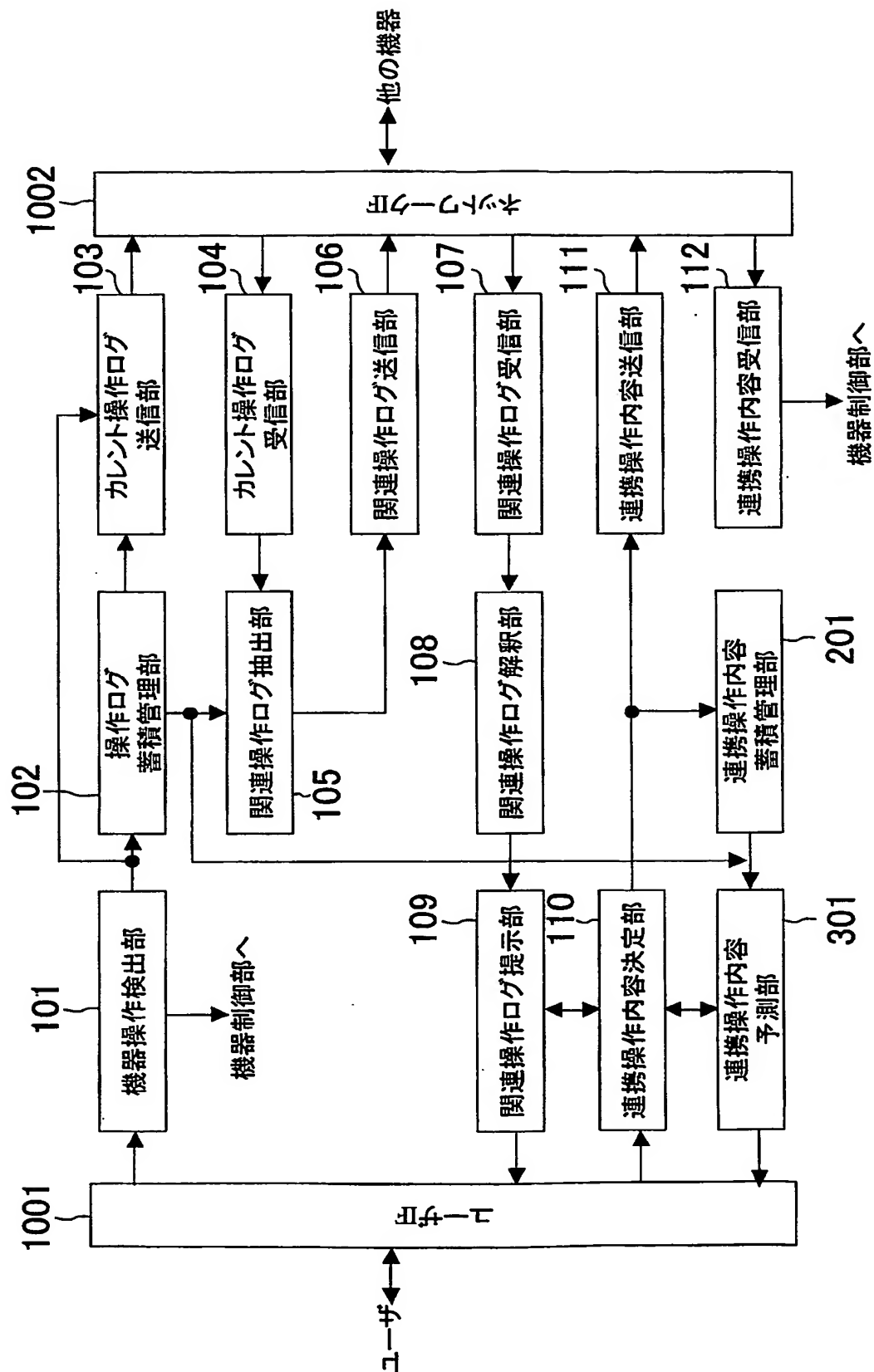
【図 21】



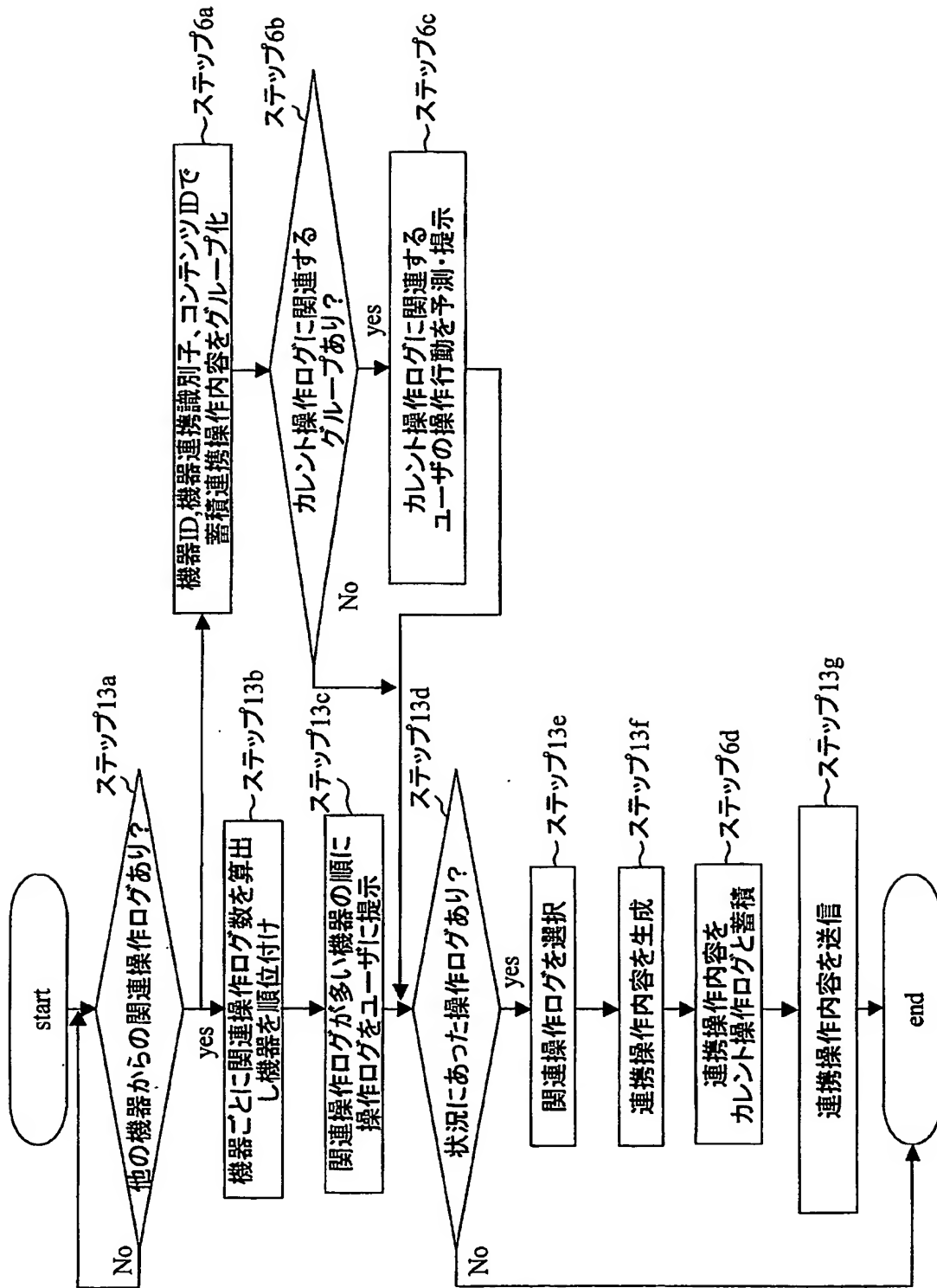
【図 22】



【図 23】



【図 24】



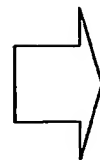
【図 25】

(a) グループ化された蓄積連携操作内容

<DeviceID>	<Time>	<Command>	<ContentID>	機器連携識別子
HDD.xxx-net		Rec	A-xxxxxxx	
PC.xxx-net		Copy	A-xxxxxxx	HDD.xxx-net

(b) カレント操作ログ

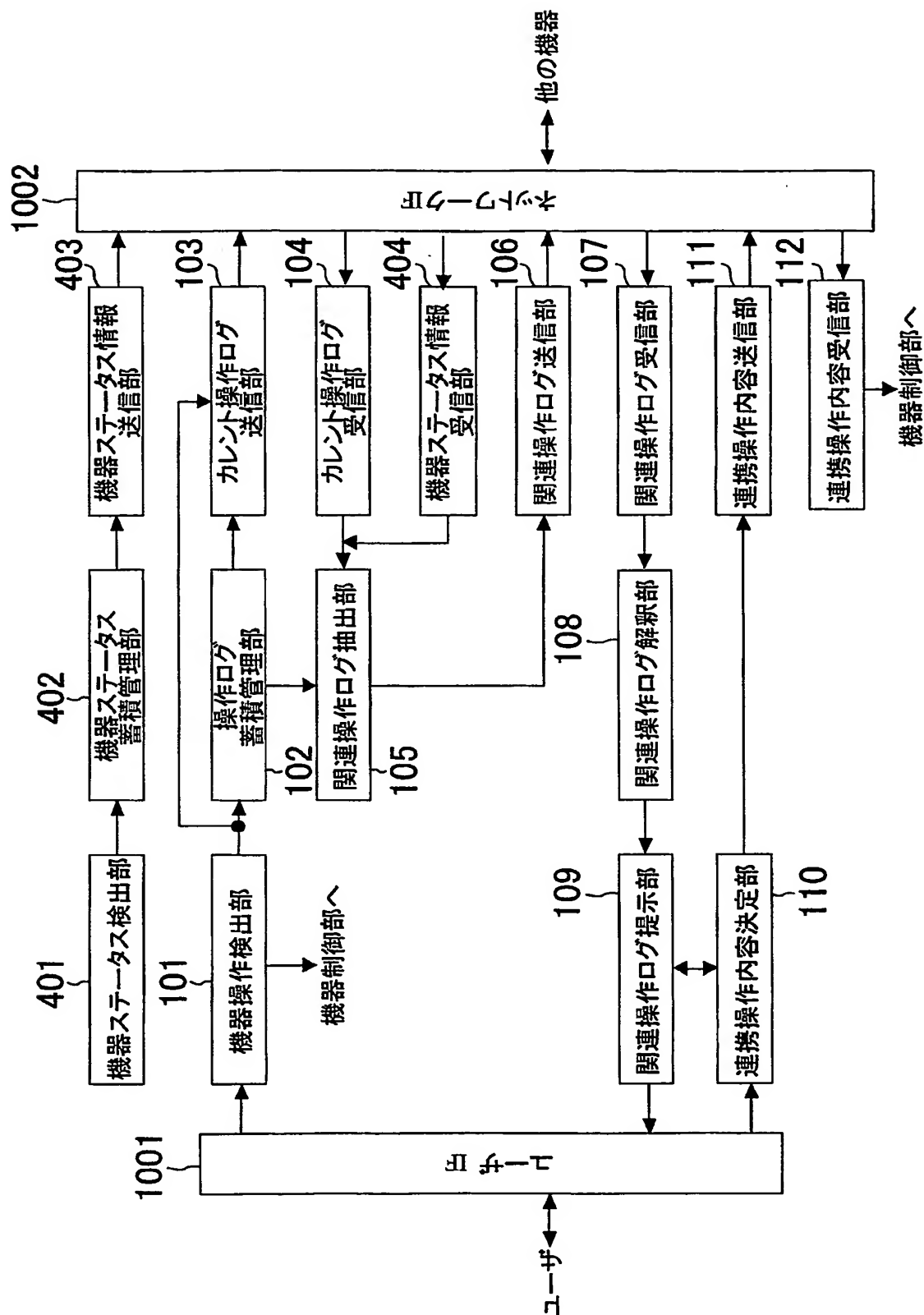
<DeviceID>	<Time>	<Command>	<ContentID>
HDD.xxx-net		Rec	B-xxxxxxx



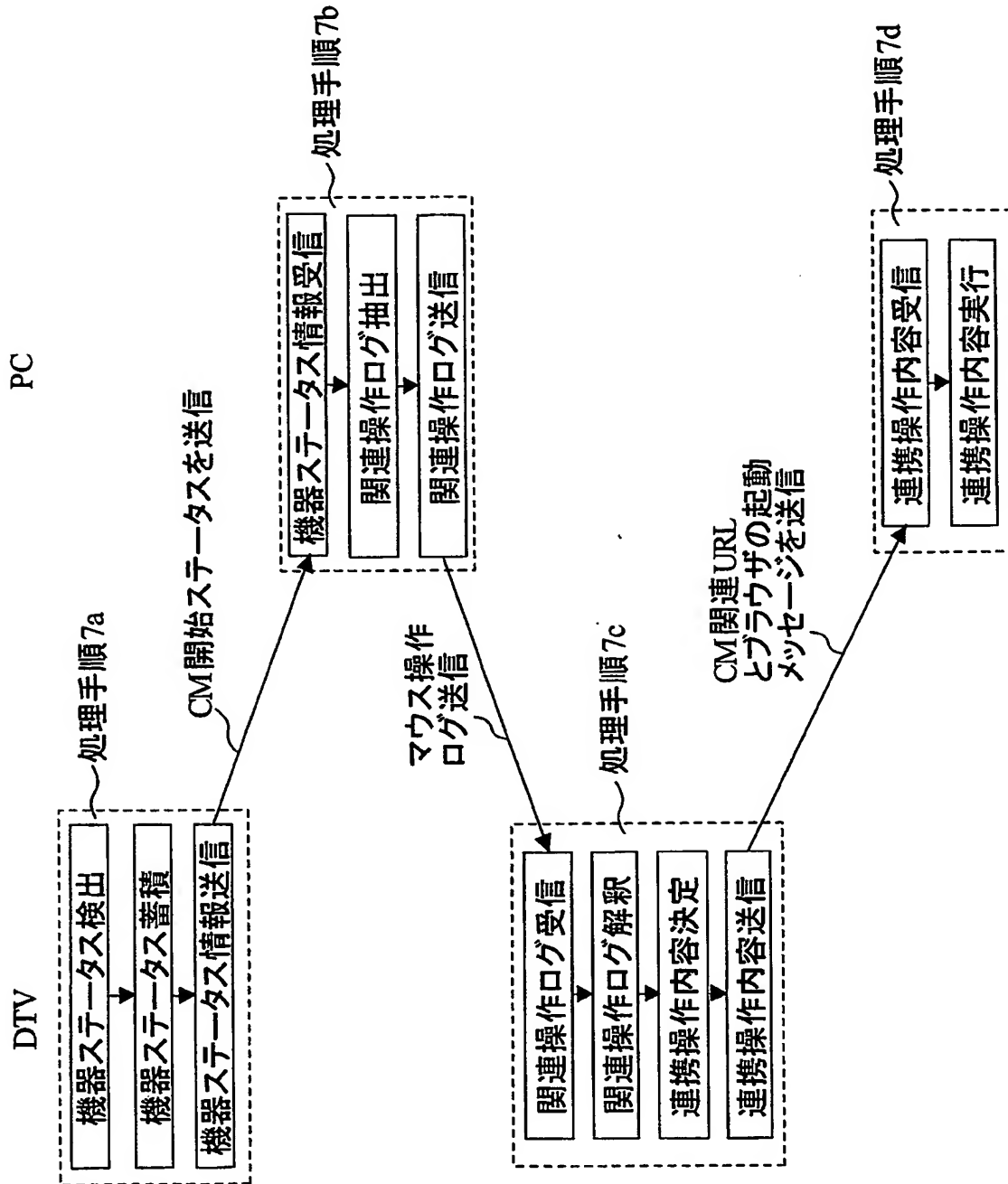
ユーザに提示される予測連携操作内容 (コンテンツIDの置換)

<DeviceID>	<Time>	<Command>	<ContentID>	<DeviceFrom>
PC.xxx-net		Copy	B-xxxxxxx	HDD.xxx-net

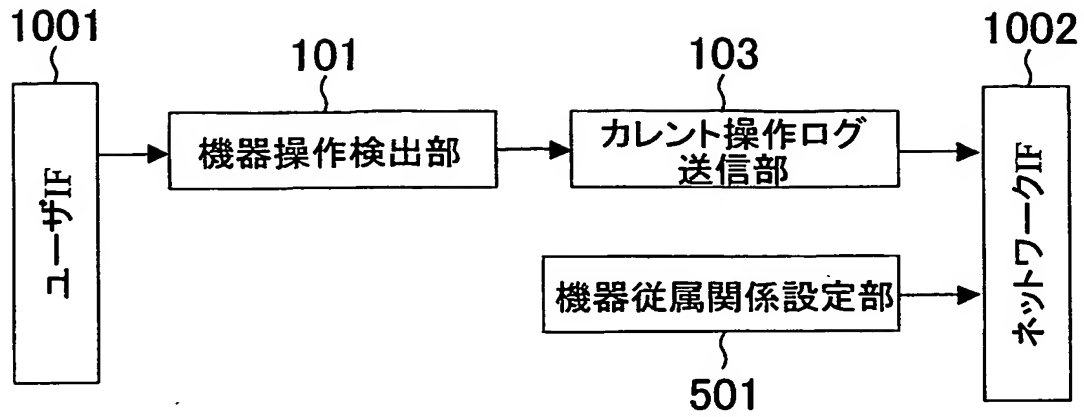
【図 26】



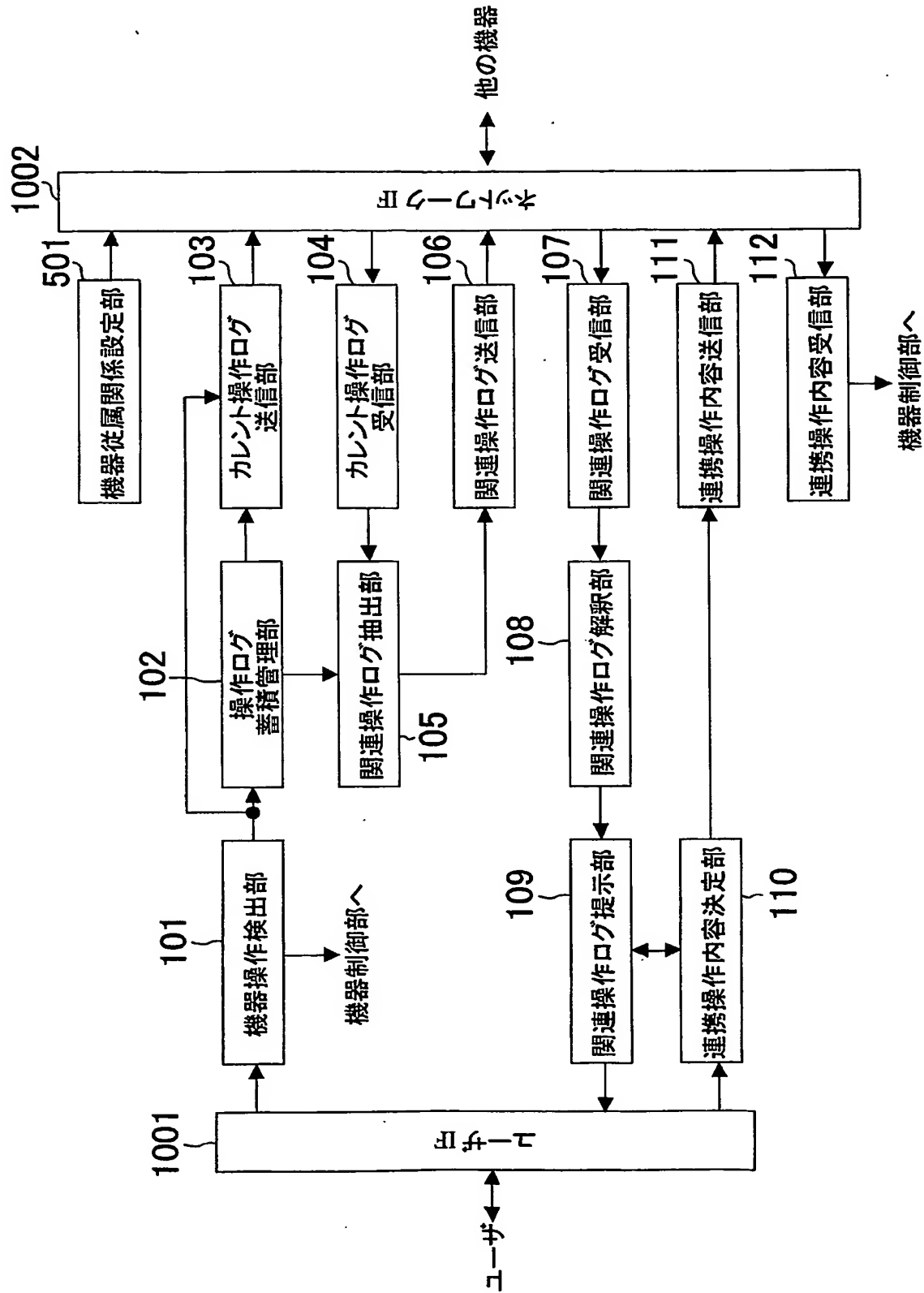
【図27】



【図 28】



【図 29】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 分散管理された操作ログを用いて複数機器の連携制御を実現する。

【解決手段】 ユーザによる機器の操作を検出（101）し、検出された操作を操作ログとして蓄積管理（102）し、現在の操作ログをカレント操作ログとして他の機器に送信（103）する。一方、他の機器からカレント操作ログを受信（104）し、これと所定の関係にある操作ログを関連操作ログとして抽出（105）し、これを他の機器に送信（106）する。更に、他の機器より関連操作ログを受信（107）し、これを解釈（108）し、解釈結果に基づき関連操作ログをユーザに提示（109）し、提示された関連操作ログから他の機器への連携操作内容を決定（110）し、これを該当する機器に送信（111）する。そして、他の機器からの連携操作内容を受信（112）して機器制御部に与える。

【選択図】 図2

特願 2002-334643

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[000005821]

1. 変更年月日

1990年 8月28日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府門真市大字門真1006番地

氏 名

松下電器産業株式会社